

文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）」

令和元年度 研究開発実施報告書（第1年次）

地域価値を創造するグローバル・ヒーロー育成に向けた
カリキュラム開発および実践



宮崎県立飯野高等学校

目次

文科省事業 1 年目を終えて

事業・研究開発の概要

コンソーシアムの取り組み

カリキュラム研究開発

1) えびの学

2) 地域貢献活動

3) 地域探究活動

4) 地域支援活動

5) 全国グローカルリーダーズ summit

その他の活動

1) WWL コンソーシアム連携校

2) えびの市支援事業

3) 海外研修

4) 地域団体との連携

関係資料（新聞、テレビ）

文科省事業 1 年目を終えて

地域をフィールドにしながらグローバルな視点で 社会課題をどう解決するか自らの視点で挑む

地域には、それぞれ生きた課題が数多く存在するため、地域への興味や関心を深め、地域の課題を探究する重要な機会がある。実際、飯野高生たちは地域との関わりの中で世界観を広げていき、その後の学びや進路に影響を受けるような活動が行われている。Society 5.0 を迎える今後は、高校生にとって最も身近である地域と学校とが手を携えながら、体験と実践を伴った探究的な学びを進めていく必要がある。本校では、これまでの地域との連携をいかしカリキュラムの研究開発をすすめている。

平成 25 年	生活情報科による地域活動スタート（ファッションショー、読み聞かせ etc） 普通科 3 年生による「道の駅を起点とした活性化策について」の市長提案
平成 26 年	普通科コース制導入（総合コース、探究コース）※2 年次よりコース選択 総合コース「地域貢献活動」をカリキュラム化。1 年間の実習活動必修化。 探究コースの課外授業で「地域探究活動」開始。 生活情報科の授業内外で地域交流活動開始。 普通科 3 年生による「もろかたツアー」の実施（県教委事業） 生活情報科で地域特産物プロジェクトが開始 生活情報科による U M A I K A 給食（えびの市内の小中学校に給食献立提供）
平成 27 年	第 1 回グローバル学習成果発表会開催 キャリア教育文部科学大臣表彰（県内初） 全国高校生マイプロジェクトアワード 2015 全国総合 2 位 「温泉で地域を元気に～京町温泉郷の活性化について探る～」 えびの市の支援事業大幅に拡大 校内に公営塾成銘館設置
平成 28 年	日本の環境を守る若武者育成塾 優秀賞受賞 「鳥獣被害から地域の未来を考える」 遠隔授業システム SmoothSpace 導入（隠岐国学習センターと遠隔授業開始）
平成 29 年	全国高校生マイプロジェクトアワード 2017 全国優秀賞「VR 観光プロジェクト」 えびの市シティセールス事業参画 えびの市 PR 動画「忘れられない歌」製作
平成 30 年	DigitalSchoolNetwork 参画（5 校） 全国高校生マイプロジェクトアワード 2018 全国優秀賞「温泉活性化プロジェクト」
令和元年	文部科学省「地域と協働する高等学校教育改革事業」に指定校 「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」連携校 全学科（コース）で探究活動をカリキュラム化 第 1 回グローバルリーダーズ summit 開催

研究開発の概要

1 研究開発構想名

地域価値を創造するグローバル・ヒーロー育成に向けたカリキュラム開発および実践

2 研究開発の目的・目標

本校の位置する宮崎県えびの市は、温泉郷をはじめ農産物などの地域資源がある一方で急速な人口減少などの地域課題を抱えている。このような環境で地域をフィールドにした新たな学び（探究活動）から、地域課題を国内外の社会課題と結びつけ、課題意識や貢献意識を持ち行動を起こす人材を育成する。さらに卒業後も、えびの市の地域振興と新たな地域価値を創造するグローバル・ヒーローとして活躍する人材の増加と人材の還流する仕組みづくりを目指す。

3 研究開発の概要

本校では、学科・コースごとにすべての生徒が地域で活動している。このことから、地域課題に関心がある生徒も多く、実際に地域の団体と連携して生徒主体のイベント実践や継続的に様々な活動が行われるなど本校生が地域に欠かせない存在になりつつある。また、本校の位置する宮崎県えびの市は、国内の少子高齢化が進む過疎地域と同様に多くの社会課題を抱えており、地域課題を考えることが社会課題を考えることにも通じる。そこで、市内唯一の県立高校である環境を活かし、これまで取り組んできた「地域学」を発展させ、新たな価値の創造と地域社会で活躍するグローバル・ヒーローを育成するための3年間を見通した体系的・系統的な実践型地域課題解決学習のカリキュラムを開発・実践やその体制構築を行う。開発・実践に当たっては地域の団体、事業所をはじめ、大学などと連携して行い、地域における課題意識や貢献意識を持つ人材育成により、地域振興の核としての機能を強化する。

4 学校の概要（設置学科、生徒数等）

学年	普通科	生活文化科	合計	総計
1 年	5 8	1 9	7 7	2 5 1
2 年	6 4	2 1	8 5	
3 年	7 3	1 6	8 9	

5 研究開発の具体的指標

（1）地域人材を育成する高校としての活動指標

（ア）地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、地域協働推進校となる高等学校等において設定した活動指標（検討会議の開催回数、研究授業の実施回数等）

- ①全体計画・成果報告をおこなうコンソーシアム全体会を年3回実施する。
- ②カリキュラム開発に関する戦略会議（コンソーシアムで作る魅力化コアチームによる会議）を年5回以上実施する。
- ③カリキュラム内容の検証・考察を行うための研究授業を年2回実施する。
- ④学習全体の実施状況を測る成果発表会を年1回実施する。
- ⑤地域課題研究にかかる校内研修等に地域の外部講師を年間のべ100人以上招聘する。
- ⑥教育課程内外で生徒と協働する地域住民の人数を100人以上とする。
（イ）普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、地域協働推進校となる高等学校等において設定した活動指標（先進校としての研究発表回数等）

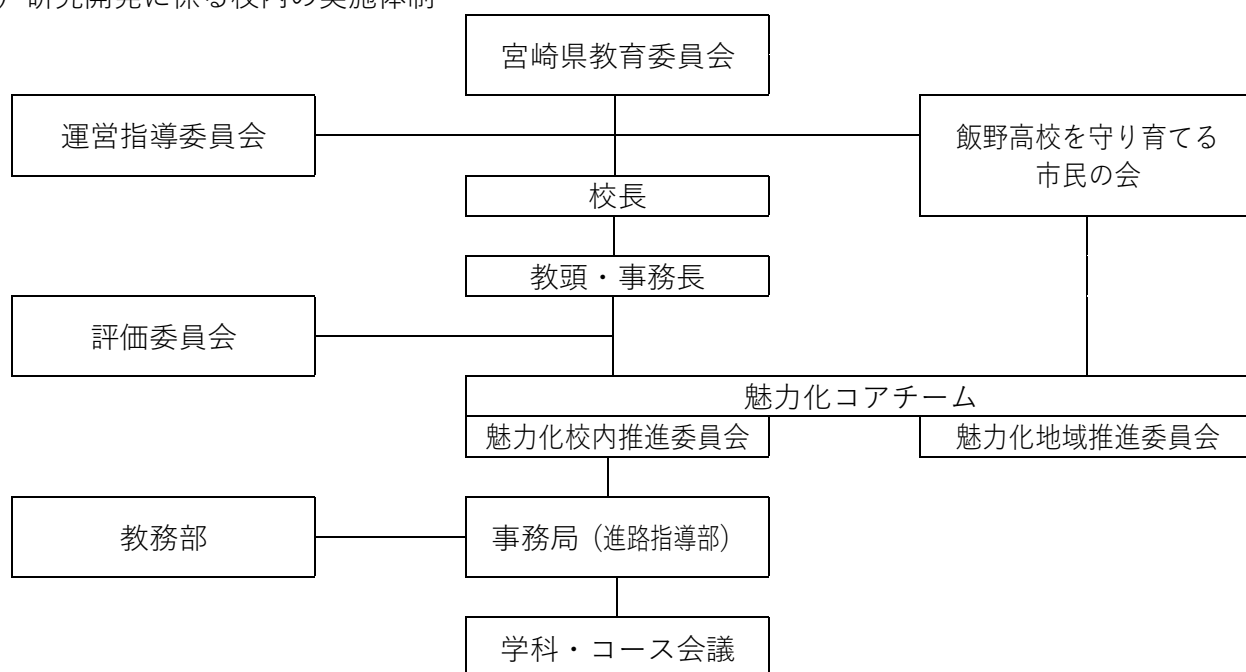
- ①学習全体の実施状況を測る成果発表会を公開する。
- ②カリキュラム内容の検証・考察を行うための研究授業を年1回公開実施する。
- ③管理機関である宮崎県教育委員会主催の研修会などでの発表を年2回以上行う。
(宮崎県生涯学習実践研究交流会、みやざきキャリア教育フォーラム)
- ④九州地区小中一貫教育サミットで事例発表を行う。
- ⑤視察受け入れ、事例発表等を積極的に行う(今年度：視察5校+3団体、事例発表6件)
- ⑥環霧島会議での講演 ※宮崎・鹿児島両県の7市町の首長・議長で構成される会議

(ウ) その他本構想における取組の具体的指標(該当がある場合のみ)

- ①全国各地で開催されている高校生サミットに2つ以上参加する。
- ②探究型学習の全国発表会へ参加する。
- ③宮崎県えびの市で地域課題解決型学習の高校生サミットおよび発表会を実施する。
(今年度：全国高校生マイプロジェクトアワード2018 宮崎えびの大会 実施)

6 実施体制

(1) 研究開発に係る校内の実施体制



(ア) 飯野高校を守り育てる市民の会

平成22年度に発足した会で、えびの市長を会長に地元の行政、事業者、団体、関係機関から構成されている。ここに新たに宮崎大学を加え、地域魅力型の学校を創る上での支援、カリキュラム開発・実践に際して必要な支援を行う。また、コンソーシアム内に魅力化地域推進委員会を設置し、会長から選任された委員がカリキュラム開発等の実務支援を行う。その際、地域協働学習実施支援員がその調整にあたる。本事業に係る必要経費についての支援も行う。

(イ) 運営指導委員会

事業全体の指導・助言に当たり県教委、外部有識者、教育関係者、地域団体代表等、第三者によって組織されるものとする。

(ウ) 評価委員会

事業の評価をするため、各種の調査及び統計処理を行い検証・評価する組織とする。得られた評価は魅力化コアチームでその後の研究に反映するとともに、この評価をもとに運営指導委員会で評価・指導を受ける。構成員には、校長が地域から選任する委員と有識者である宮崎大学の教員を選任する。

(エ) 魅力化コアチーム

飯野高校を守り育てる会（コンソーシアム）内で構成される魅力化地域推進委員会と教師で構成される魅力化校内推進委員会の構成員による魅力化コアチームをつくり本事業の要となる組織とする。

(オ) 魅力化校内推進委員会

地域協働推進校としての研究開発を学校全体の取り組みとして推進する組織とする。校務分掌の主任、学科・コース各担当教員により構成し、カリキュラム開発や授業づくりの研究、事業に関して等を校内の教師への浸透させる。また、事例発表やWEBの活用、学校説明会等々、外部発信も担当する。委員には、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員を構成員に含める。

(カ) 魅力化地域推進委員会

飯野高校を守り育てる会（コンソーシアム）内に本校との連携に関する実務委員会として事業に関するコンソーシアム内の調整、地域との連携活動を集約し、本校との連携が円滑に進むよう調整等を行う。委員には、教員 1 名、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員を構成員に含める。

(キ) 事務局

地域協働推進校としての研究開発全般のマネジメントを中心に担う組織とする。教師と地域協働学習実施支援員で構成する。魅力化コアチームへの原案提示、事業の企画調整、関係機関との連携調整、予算の執行等を担当する。

(ク) 教務部

研究開発に関して、カリキュラム開発に関してカリキュラム表の作成や各教科との連携を調整する。

(ケ) 学科・コース会議

学科・コースごとにすべての教師が構成員となり研究プログラムに基づく実践を行うための連絡会議とする。

(2) 教師の役割及び担当する教師等に対する支援体制

事務局（進路指導部）に所属する教師が企画・立案を行い、魅力化コアチームに所属する教師が地域のコアチーム構成員とカリキュラム開発を行う。

また、学科・コース会議には、すべての教師が学科・コースごとに所属し、実践する上での学習内容や指導法を共有する。また、これらの活動を支援するため、事務局に地域協働学習実施支援員、魅力化コアチームにカリキュラム開発等専門家を配置して、活動の支援助言等を行う。

(3) カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における役割・位置付け

(ア) カリキュラム開発等専門家

飯野高校を守り育てる市民の会（コンソーシアム）の大学教員から選任し、魅力化コアチームの構成員として、実践型地域課題解決学習のカリキュラム開発に関して指導、助言を行う。

(イ) 地域協働学習実施支援員

飯野高校を守り育てる市民の会（コンソーシアム）の構成機関であるえびの市教育委員会内に配置し、魅力化コアチーム、事務局の構成員として学校と地域のコーディネート業務を行う。

(4) 研究開発の進捗管理、計画・方法の改善方策

進捗管理については、管理機関である宮崎県教育委員会からの指導主事の派遣をはじめ、運営指導委員会の助言、校長による管理の下、魅力化コアチームを中心に事業を進めていく。また、計画・方法の改善方策についても年 5 回以上開催する魅力コアチームの戦略会議で企画・立案したものを実践する。実践後は、評価委員会による評価と反省に基づいて考察したことを反映させた計画・方策を打ち出し、常に内容を深化させていく P D C A サイクルを構築する。

(5) 成果の検証・評価のための外部有識者等の参画・支援

本校と連携する大学（宮崎大学、大正大学（東京都））、研究機関等の研究者をカリキュラム開発等専門家、評価委員会、コンソーシアム（飯野高校を守り育てる会）内に配置し、多面的・継続的に指導・助言を受けることによって、カリキュラムの内容をより高度なものに発展させ、教員の指導法の向上を図る。

(6) 教育課程等の研究開発に関する組織体制整備の実績（該当がある場合のみ）

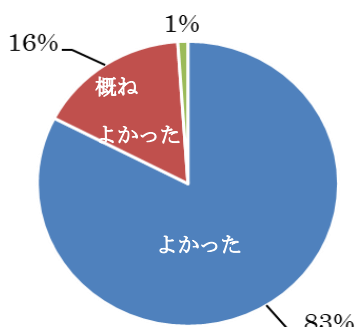
今年度より校内組織として、教師および市の職員からなる魅力化委員会を設置し、地域との連携や校内の取り組みの発信を行っている。また、進路指導部内に探究活動の学科・コース担当者を配置し現状の活動が円滑な推進とカリキュラムの改善に努めている。

7 研究開発計画

(1) 現状分析、仮説及び期待される効果

(ア) 現状分析

昨年末に、3 年生 89 名を対象として「地域活動」に関するアンケートでは以下のような結果が得られた。まず、「飯野高校で地域活動（地域貢献活動 地域探究活動 地域交流活動）に取り組んでよかったか。」という問いに対しては、よかった 83%、概ねよかった 16%であった。また、取り組んだ中で特によかったこと（経験できてよかったこと）として



地域活動に取り組んでよかったか。

「地域に関われた事」「地域社会を学べたこと」

「自分の将来のことを考えるようになった」

「実習先も地域に支えられていると感じた」

「自分から行動することの大切さを学べた」

「自分たちの取り組んだことが結果として地域を良くすることができたこと」

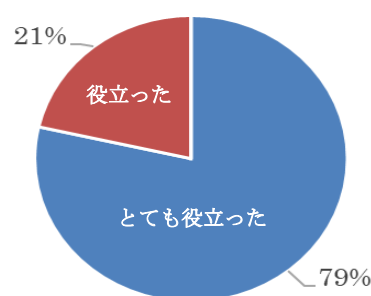
「興味のあることを学びたいという意欲が大きくなった」

「地域の事だけではなく、将来に役立つことが知れてよかった」

「社会に出てぶつかりそうな課題に直面した」「地域医療の現場について知ることができよかった」

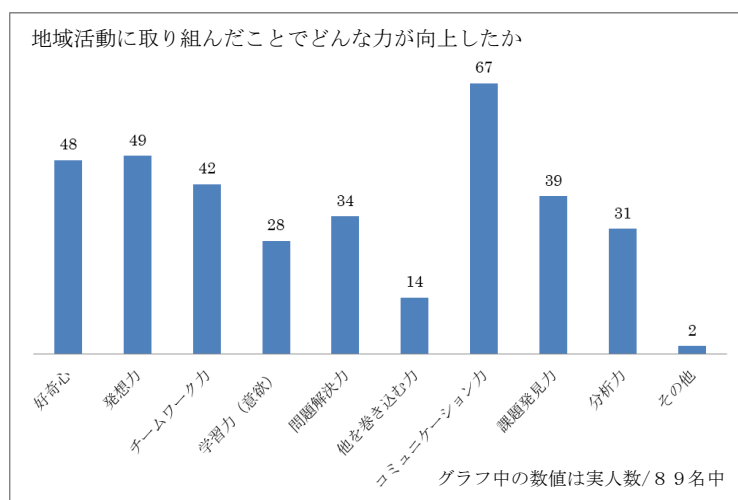
「実際に仕事を見て経験することで地域や社会に関わりを持つことができた。自分が成長できた」など、それぞれの取り組みに対して肯定的な内容が目立った。

自分の進路に活かすことができたか



次に、「地域での活動を自分の進路に活かすことができたか」という質問については、とても役立った79%、役立った21%ですべての生徒が肯定的にとらえている。この調査の結果から本校生徒は、現状においても地域における活動から学び得ていることや「地域」に対して良いイメージを持つ生徒が非常に多いことが分かる。また、卒業後に地域創生系の大学、「地域」をテーマに研究したいという生徒が増えてきており、これまで活動を深化させることでこうした生徒がさらに増えると予想される。

さらに、「地域活動に取り組んだことでどんな力が向上したか」という質問に関しては左下のグラフにあるように活動を通して生徒たちが様々な力を身につけたことを実感している



ることが分かる。つまり、現状においても本校で取り組んでいる地域貢献活動（普通科総合コース必修科目）、地域探究活動（普通科探究コース課外活動）、地域支援活動（生活文化科カリキュラム内活動+課外活動）ある程度の成果が出ていることから、すべての学科・コースで地域と協働したカリキュラム化を進めていき、さらに地域と綿密な関係を築いていくことで、左のグラフにあるような力を身につけていく生徒が今後も増えていくことが予想される。

以上の調査結果から、本校の特色である地域学をはじめとする実践型地域課題解決学習の成果といえる。実際、この数年、生徒たちが校外で取り組みを発表する機会が増えており地域でも高い評価を得ている。また、東京などで開催される全国規模の大会、県内大会で顕著な成績を修めている。以下がその実績である。

2015年	○全国高校生マイプロジェクトアワード（東京都）総合2位 受賞 ※京町温泉郷活性化プロジェクト「温泉で地域を元気に！」 ○宮崎県高等学校家庭クラブ研究発表大会 優秀賞 ○ハイスクールサミット in 東北参加 ○文部科学大臣キャリア教育表彰（県内高等学校初）
2016年	○日本の環境を守る若武者育成塾（東京都）優秀賞 受賞 ※「鳥獣被害から地域の未来を考える」 ○宮崎県高等学校家庭クラブ研究発表大会 優秀賞
2017年	○全国高校生SBPチャレンジアワード Google イノベーション賞(三重県) ○全国高校生マイプロジェクトアワード（東京都）全国優秀賞 受賞 ※「VR観光プロジェクト」 ○宮崎県牛乳・乳製品利用料理コンクール学生たまご料理コンテスト優秀賞 ○宮崎県高等学校家庭クラブ研究発表大会 優秀賞
2018年	○高校生SRサミット参加 ○宮崎県高等学校家庭クラブ研究発表大会 優秀賞 ○宮崎おにぎりコンテスト優秀賞

本校創立の1965年に約33,000人いたえびの市の人口は、2018年には18,500人まで減少している。市内の子どもの数も20年ほど前には学年約360人ほどだった生徒の現在は約150人に

減少。そこで平成 22 年度より、えびの市による本校への支援事業がスタートし、飯野高校を守り育てる市民の会が中心となって県と市の垣根を超えた取り組みが注目されている。また、平成 20 年度より小中高の 12 年間で児童生徒の発達段階に応じた連携型の一貫教育を行っている。隣接する飯野小学校、飯野中学校の飯野高校の全職員が知・徳・体の 3 部会に分かれて 27 の事業を展開している。基礎学力の向上を目指して授業の乗り入れ事業や小中高生と一緒に朝のあいさつ運動、地域の清掃活動、えびの米生産活動（田植え・稲刈り）、児童会と生徒会合同で地域貢献を考えるこどもサミットなどを開催している。また、体力の向上と健康で安全な生活習慣を目的に食育の一環として高校生による小中学生への調理講座、保健体育の教師による小学校のクラブ活動の指導や中学校と高等学校の部活動の合同練習なども実施している。

これらの取り組みは、人口減による本校存続が当初の目的の 1 つであったが、現在では目的以上の効果が表れており、自治体や地域を巻き込んだ本校の教育活動が評価され、平成 27 年度に宮崎県で初めてキャリア教育に関する文部科学大臣表彰を受けた。

さらに、平成 28 年度から島根県隠岐郡海士町にある隠岐国学習センター（島根県立隠岐島前高校）との遠隔授業を行っている。これは NTT 西日本と N E C ネットエスアイが開発した世界最先端の ICT 機器を活用した授業で平成 28 年 6 月から毎月 1 回のペースで実施している。授業は宮崎県の河野知事が参加して「知事の白熱教室」や地域課題をテーマにディスカッションを行うなど様々な場面で活用されている。遠隔授業のメリットは様々な価値観に触れ、自分たちの活動を客観的に振り返ったり、深める機会になったり、知らない世界観に触れる貴重な機会となっている。本年度は、Cisco 社が主宰する Digital School Network にも参画し海外の高校や大学との遠隔交流（地域の文化などを英語で紹介する）もスタートしている。

以上のような本校の特色ある取り組みを踏まえて、本校と地域が連携し、これまで行ってきた実践型地域課題解決学習による探究的な学びを持続可能なものにするため、カリキュラム開発を柱に取り組みたい。また、地域の魅力に気づき、地域から活動する生徒を増加させ、域外へ出た後にも人材が還流するしくみづくりをすることで地域創生の核となる高校づくりを本事業を通して具現化していきたいと考えている。

（イ）仮説及び期待される効果

えびの市内唯一の県立高校である本校は、（ア）の記載にある通り、これまで独自に行ってきた地域と連携したキャリア教育※や小中高一貫教育の成果がある。これをベースに高校 3 年間を見通した実践型地域課題解決学習の新たな教育カリキュラムを開発し、地域の現状を踏まえた探究的な学びを実現させる。実践を重視し、えびの市の活性化に資する取り組みをすることで、将来、地域を拠点としながら活躍するグローバル・ヒーローを育成することが期待できる。

※地域と連携した学科・コースごとの地域学習プログラム（平成 26～30 年度）

学科・コース	普通科総合コース	普通科探究コース	生活文化科
プログラム名	地域貢献活動	地域探究活動	地域支援活動
学習の特徴	学校設定科目「LCA」（地域貢献活動）で、1 年間・毎週 2 時間、市内の事業所で実習。自ら体験した職業から自身のキャリアや地域課題を考える。	課外活動において、地域課題の解決にむけ、地域の大人を巻き込み、一緒になって実践。全国級の大会で続々入賞し、大学の推薦入試でも数々の実績。	家庭科等の授業で学んだことを「地域支援活動」で地域に還元。地域での実践を通して、地域に根ざし、衣食住・保育など生活産業分野のスペシャリストを育成。
主な実績等	普通科総合コースの必修科目で小学校、市民図書館、グループホー	全国高校生マイプロジェクトアワードで全国入賞（2015 年度 総合 2 位	地域でファッションショー「iino コレクション」実演。米粉を使用した特

	ム、JA、A コープ、保育園、幼稚園、道の駅など市内 12 の事業所で活動を行っている。普通科でこのような事例は少なく、この取り組みは注目されている。	他) 全国高校生 SBP チャレンジアワード入賞。2018 年度 3 年生には九州大学共創学部（AO 入試）合格者をはじめ、地方創生系学部への進学者が増加。	産品開発、道の駅レストランでメニュー開発、幼児むけ読み聞かせ定期実施。県内コンテストで多数の入賞。
--	---	--	---

現状では課外活動に位置付けられているものも含め、本校の特色ある活動を最大限に活かす「実践型地域課題解決学習」をカリキュラム化し、展開していくことで地域課題に高い関心を持ち、その解決を実践していく生徒の割合が増えることが期待される。そして、地域に身を置きながら広い視野で地域の魅力を発信し地域活性化に貢献できる人材育成にもつなげることができる。

また、活動の成果を用いて全国レベルのコンテストや研究発表会への参加、研究公開や校内の成果発表会（グローバル学習成果発表会、2015 年より年 1 回実施）を行うことによって、えびの市や大学（宮崎大学、大正大学）との連携を図りながら、本校が中山間地域の課題解決と地域創生の拠点としての役割を担っていくことが期待される。

（２）実施内容、実施方法及びスケジュール

	研究 事項	学校設定科目「地域探究活動」「地域支援活動」新設および「えびの学」「地域貢献活動」の再編による「地域学」全体の指導計画・環境整備
1 年 目	実践 内容	・コンソーシアムである飯野高校を守り育てる市民の会と連携しながら教育プログラム及び指導・支援体制を確立する。 ・飯野高校を守り育てる市民の会内に魅力化地域推進委員会を設置、校内の魅力化校内委員会と合わせた魅力化コアチームを結成し、年 5 回以上、カリキュラム開発を含めた戦略会議を行い持続可能な体制を創る。以後、毎年実施。 ・1 年生で「えびの学」（探究の基礎）、2 年生以降は、新たに学校設定科目「地域探究活動」「地域支援活動」を教育課程に位置付け、学科・コースごとに地域貢献活動、地域探究活動、地域支援活動を実施し、次年度以降の現状と課題を整理する。 ・2 年生を対象に地域活性化の成功事例等を学ぶ国内研修を開始する。 ・高校生サミットや全国発表会等で実践発表を行う。 ・職員、コンソーシアム関係者、連携事業所関係者を一同に会した研修会（ワールド・カフェ等）を実施し意識の共有化を図る。以後、毎年実施。 ・先進校視察を行い、カリキュラム内容、生徒への指導、伴走、評価方法について学ぶと同時に、遠隔などによる生徒間交流について協議を行う。 ・生徒の進路や意識調査を踏まえ、事業全体の詳細な分析を行う。以後、毎年実施。 ・グローバル学習成果発表会 2019 を開催し、生徒への指導、伴走、評価の在り方について協議を行う。
2 年	研究 事項	地域と協働した「地域学」と教育課程外の学びで、地域課題＝社会課題の視点で自ら課題解決を図り実践する人材育成の研究

目	実践内容	・前年度の研究成果を踏まえ、プログラムの改善を行う。 ・地域活動を充実・発展させ、魅力化コアチームによる教育課程外での起業家育成プロジェクトを開始する。 ・「地域学」における授業や評価の研究を行う。 ・持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえ、地域課題と社会課題を結ぶカリキュラム内容、指導、伴走の在り方について研究する。 ・連携する宮崎大学や大正大学の学生や地域の事業所等と本校生の共同プロジェクトを実践する。以後、毎年実施。 ・グローバル学習成果発表会 2020 を開催し、指導方法、伴走、評価の在り方について協議を行う。
3 年 目	研究事項	カリキュラム開発による事業の成果と持続可能な体制の構築
	実践内容	・「地域学」の完全カリキュラム化における成果と課題についてコンソーシアムで研究総括を行う。 ・カリキュラム内外問わず、常に生徒たちが学ぶことのできる地域との協働体制を完成させる。 ・生徒の進路や意識調査を踏まえ、事業全体の詳細な分析を行い、地域人材の還流のしくみづくりについて研究する。 ・グローバル学習成果発表会 2021 を開催し、次年度に向けて協議する。 ・事業の成果と課題について報告書を作成し、持続可能な体制を確立させる。

※実践に当たっては、事業全体が効果的に進んでいくよう適切な時期に以下の会議を実施する。

飯野高校を守り育てる市民の会（年 2 回）、運営指導委員会（年 2 回）、評価委員会（年 2 回）、魅力化コアチーム戦略会議（年 5 回）、魅力化校内推進委員会（週 1 回）、魅力化地域推進委員会（年 3 回）、事務局会議（週 1 回）、学科・コース会議（隔週）

（３）仮説の検証に係る実施対象（対象とする生徒数、学科・コース間の比較等）

実施学科 コース	1 年生	2・3 年生			計
	全学科	普通科総合コース	普通科探究コース	生活文化科	
科目名	えびの学	地域貢献活動	地域探究活動	地域支援活動	
対象 生徒数	1 2 0 名	2 年 生 2 5 名 3 年 生 2 5 名	2 年 生 3 4 名 3 年 生 3 7 名	2 年 生 1 9 名 3 年 生 2 1 名	2 8 1 名

（４）先進的な地域課題研究等の実績及び当該実績の計画への反映（該当がある場合のみ）

2 0 0 8 年	○えびの市飯野地区において連携型小中高一貫教育スタート ○地域学「えびの学」を開講
2 0 1 0 年	○インターンシップを普通科含む 2 年生全学科で実施（3 日間）4 0 事業所
2 0 1 4 年	○普通科コース制（※2 年次より総合コース、探究コース）開始 ①学校設定科目「地域貢献活動」開講 - 総合コースにおいて地域の事業所で 1 年間の実習を必修とする ②探究コースにおいて課外授業「地域探究活動」を開講 ③生活文化科において衣・食・住、保育における地域交流活動開始 - 地域イベントでのファッションショー、市民図書館読み聞かせ会 - 地域特産物開発プロジェクト（えびの市産業文化祭で販売）etc
2 0 1 5 年	○第 1 回グローバル学習成果発表会開催 ○全国高校生マイプロジェクトアワード 2015（東京都）総合 2 位 受賞

	※京町温泉郷活性化プロジェクト「温泉で地域を元気に！」 ○文部科学大臣キャリア教育表彰（県内高等学校初）
2016年	○日本の環境を守る若武者育成塾（東京都）優秀賞 受賞 ※「鳥獣被害から地域の未来を考える」 ○島根県立隠岐島前高校（隠岐国学習センター）との遠隔交流授業スタート ※N T T 西日本 SmoothSpace による日本初の実証事業
2017年	○全国高校生 S B P チャレンジアワード Google イノベーション賞 ○全国高校生マイプロジェクトアワード 2017（東京都）全国優秀賞 受賞 ※「V R 観光プロジェクト」
2018年	○高校生 S R サミット参加 ○生活情報科（生活文化科）の地域交流活動を地域支援活動に改編 ○Digital School Network 参画 ※Cisco 社 WebexBoard を活用した国内外の機関との遠隔交流授業

8 研究開発内容

（１）地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等。教科横断的な取組を含む。）

現在開講している学校設定科目「えびの学」「地域貢献活動」およびを新学習指導要領で次年度から先行実施される「総合的な探究の時間」の内容を踏まえつつ発展させカリキュラム内容を再編し、以下のような教育プログラムを実施する。

学科 コース	1 年生	2・3 年生		
	全学科	普通科総合コース	普通科探究コース	生活文化科
科目名	えびの学	地域貢献活動	地域探究活動	地域支援活動
学習 内容	地域の未来をテーマに地域の現状から課題を考え、その解決策をプレゼンするなどして探究の基礎を学ぶ。1 学期は、えびの青年会議所、2 学期はインターンシップを行う事業所と連携して活動し探究のサイクルを繰り返すことで学びを深める。	2 年 1 学期にえびの市が抱える課題を 6 つのテーマで市役所職員と一緒に考え、2 年 2 学期～3 年 2 学期の 1 年間(週 2 時間)、市内の事業所で長期実習活動を行う。自ら体験した職業から自身のキャリアや地域課題を考え、その解決策を実践する。実践後は、探究のサイクルを繰り返すことで学びを深める。	自分の身の回りや地域の課題について、テーマ設定を行い、地域からの聞き取り調査やフィールドワークから課題解決策を考え、地域を巻き込みながら実践していく活動とする。実践後は、探究のサイクルを繰り返し、社会課題解決の観点からも考え、地域活性化に向けた方策について学びを深める。	専門教科である家庭科（食物・被服・保育・情報等）での実習などの学びをベースに地域課題を考え、日常生活における生活のデザインと地域支援の観点から課題解決を図る実践活動を行う。実践後は、探究のサイクルを繰り返し、地域社会全体の課題の改善にもつなぐ活動にする。

グローバル学習成果発表会（3 年生 1 月開催）※

※グローバル学習成果発表会は、それぞれの学科・コースで取り組んだ成果を地域全体に向けて本校生が発表を行う。また、企画・運営は総合コース 3 年生がすべて行う。（今年度は、研究活動で連携した関係者をはじめ、えびの市役所、市教委（小中学校関係者）、大学教員、県教委、中学生、地域団体、県内高校の視察など 150 名以上が来場。年々増加傾向にある。）

(3) 地域の現状や課題等への関心、地域社会への貢献の意義や実感を芽生えさせるための工夫

現3年生へのアンケートでは、すべての生徒が今後も何らかの形で地域に貢献したいと答えている。回答内容も、「将来的には地元に戻ってきてえびの市を活性化させていきたい」「高校生が何か地域のためにやっているということが見えるだけで地域の大人を巻き込み、地域に対してもっと課題意識を持ってもらえるなど周りの他にも良い影響与えている」「アイデアを出すだけではなく行動に移していきたい。」「様々な視点からの考えが出て面白かった。これから活動が続けているより深く地域に関わって行けたらと思います。」「地域に根ざした活動を積極的に行っていく。」「高校卒業したら活動を辞めるのではなく卒業後も地域に何かしら貢献する。」というように現状の活動においても地域社会への関心、貢献意識が高いことが分かる。これは、以下のことをプログラムの中で工夫してきたからだと考えている。

- ①地域で活動する本気の大人に触れる。
- ②活動中でできるだけ多くの地域住民とかかわりを持つ。
- ③探究活動のサイクルと実践を繰り返し、主体的な行動による成果と周囲からの評価を得る。
- ④地域全体へ活動成果をアウトプットする発表会を実施する。
- ⑤新聞やテレビ、SNSなどを通じて生徒たちの活動の様子を発信する。

本事業においても、生徒たちの地域社会への貢献意識と実際の行動がさらに高まるよう研究を進めていきたいと考えている。

(4) 生徒の自律的なキャリアデザインを促すための工夫（該当がある場合のみ）

- ①毎年3月に地元企業の魅力を知るというコンセプトで校内ガイダンスを実施している。
- ②「えびの学」では、地域の未来について考え、地域と自らのキャリアを考える時間を設定する。
- ③「地域貢献活動」「地域支援活動」においては自らのキャリアを考える長期の地域実習を伴うプログラムになっている。
- ④「地域探究活動」においては、テーマ設定をすべて生徒自身で考えるものとしており、活動内容から地域課題と自らの進路を考える時間も設けている。

新たなカリキュラム開発においてもこれまでの取り組みを継承しつつ、生徒による地域活性化に結びつく活動へ深化させていきたいと考えている。

コンソーシアムの取り組み

①コンソーシアムの構成団体

えびの市、えびの市議会、飯野高校同窓会、えびの市教育委員会、えびの市自治会連合会、えびの市農業協同組合、えびの市商工会、えびの市観光協会、えびの市地域婦人連絡協議会、えびの市子ども育成連絡協議会、えびの市体育協会、えびの市社会福祉協議会、えびの市民生委員児童委員協議会、えびの市教育・保育施設園長会、えびの市青少年育成市民会議、えびの市高齢者クラブ連合会、飯野高等学校 PTA、えびの市中学校校長会、宮崎県議会、えびの市 PTA 連絡協議会、宮崎県立飯野高等学校、えびの市立飯野中学校、えびの市立飯野小学校

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年4月24日 飯野高校魅力化の会	コンソーシアムを組織 ・本校の取組み及び事業説明
令和元年6月18日（第1回） 魅力化コアチーム委員会	第1回会合 ・本校の取組み及び事業説明 ・これまでの本校の地域での探究について協議し、 本会からの提言をもとに方針を決定
令和元年7月29日（第2回） 魅力化コアチーム委員会	第2回会合 ・どんな学校が魅力なのか ・何があると魅力的なのかについて協議
令和元年9月18日（第3回） 魅力化コアチーム委員会	第3回会合 ・本校の魅力は？（地域にとって、中学生、保護者にとって ...） ・魅力づくりへのアクション
令和元年11月24日（第4回） 魅力化コアチーム委員会	第4回会合 ・地域における探究活動のさらなる深化 ・高校魅力づくりへのアウトカム ・地域の核となる高校へ。地域（えびの市）がどう あるべきか
令和2年1月23日（第5回） 魅力化コアチーム委員会	第5回会合 ・社会と教科のつながりをつくるには ・学校を超えた学びづくり
令和元年3月13日 飯野高校魅力化の会	臨時休校措置により中止

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

大正大学専任教員 山中昌幸氏（都度依頼し謝礼支払い）2回来校、3回オンライン

②活動日程・活動内容

以下の日程で、本校のカリキュラムについて内容の協議や地元企業との協議等を行った。山中氏の実践や他県での事例を参考にしたり、全体に係る構想や授業の具体的な設計について5回にわたって協議する時間を設けた。

活動日程	活動内容
令和元年6月18日	・令和元年度事業における活動計画について協議 ・連携企業との打合せ会議に同行 ・会議後にカリキュラム内容に関する協議
令和元年7月29日	・地域との連携した取り組みについて ・教科との接続について ・評価について
令和元年9月18日	・探究活動におけるガイドライン作成について
令和元年11月24日	・カリキュラム内容に関する協議 ・大学との連携事業について
令和2年1月23日	・社会と教科のつながりをつくるには ・学校を超えた学びづくり

(3) 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

VoiceGift Lilybell 代表 遠目塚文美氏（魅力化コアチーム委員として探究活動の伴走）

②実施日程・実施内容

生徒が、探究活動を行う際の助言や地域との接続、連絡調整などを生徒たちの活動の状況に応じて行った。また、魅力化コアチームの一委員として以下の協議に参加した。

日程	内容
令和元年6月18日（第1回） 魅力化コアチーム委員会	第1回会合 ・本校の取組み及び事業説明 ・これまでの本校の地域での探究について協議し、 本会からの提言をもとに方針を決定
令和元年7月29日（第2回） 魅力化コアチーム委員会	第2回会合 ・どんな学校が魅力なのか ・何があると魅力的なのかについて協議

令和元年9月18日（第3回） 魅力化コアチーム委員会	第3回会合 ・本校の魅力は？（地域にとって、中学生、保護者にとって…） ・魅力づくりへのアクション
令和元年9月21日	地域探究活動伴走 子育て支援プロジェクトNOGIKU
令和元年11月24日（第4回） 魅力化コアチーム委員会	第4回会合 ・地域における探究活動のさらなる深化 ・高校魅力づくりへのアウトカム ・地域の核となる高校へ。地域（えびの市）がどうあるべきか
令和2年1月23日（第5回） 魅力化コアチーム委員会	第5回会合 ・社会と教科のつながりをつくるには ・学校を超えた学びづくり

（４）運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職
津曲 洋一	えびの電子工業株式会社 代表取締役社長
明石 秀人	明石酒造株式会社 代表取締役社長
矢野 健二	宮崎国際大学 地域連携センター長・大学部長
福永 栄子	株式会社アイロード 代表取締役社長
石坂 乃里子	えびの里山の会 会長

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年9月18日（第1回）	第1回会合 ・本年度の取組み計画 ・事業内容の説明 ・これまでの取組みに関する指導・助言
令和2年2月12日（第2回）	第2回会合 ・本年度の取組み成果について ・これまでの取組みに関する指導・助言

運営指導委員会からの指導・助言内容

- ・持続可能な学びをするために県教育委員会のサポートをお願いしたい。
- ・グローバル学習成果発表会、全国グローバル summit など、これまでになかった生徒たちの長など明らかな変化が起きている。特に発表の中で、失敗談が語られたのは良かった。

成

- ・知識・技能を徹底的に入れ込んでいくことも大事にしながら進めていくことが大事である。
- ・日ごろの教科指導 今まで以上のものを与えていく。
- ・ある程度、枠は与えながら枠を破る生徒を育てる。
- ・生徒募集（地域から中学生）と進路実現にどうつなげるか。
- ・周囲の環境に気づいているか（地域みらい留学の生徒の活躍が鍵）
- ・県全体に波及できるようなシステムをつくる。
- ・飯野高校を守り育てる会にむしろ乗ったほうがいいのではないか。
- ・地元に飯野高校に対して、どう目を向けさせるか。
- ・英語を実践できる高校は、魅力的なのでは？
- ・魅力化コアチームと生徒の対談をしてみてもどうか。

7 研究開発の実績

（１）実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域学の 充実・実践	週 1～2 時間 →											
魅力化コアチーム 委員会の開催			1回	1回		1回		1回		1回		
グローバル学習成果 発表会 2019						企画		準備	→	開催		
全国グローバルリー ダーズ summit						企画		準備	→	開催		
視察研修				まちづ くり甲 子園	SR サミット	SCH シンポジ ウム	全 国 協 議 会					

（２）実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本年度より各学年、学科コースの特性に応じた探究活動を始めた。チャレンジ 1 年目ですべてのカリキュラムにおいて実践を伴う実践型課題解決学習の試行、開発に取り組むことができたことは大きい。以下はその内容である。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

各学科・コースに以下の学校設定科目をカリキュラム化している。

学科 コース	1 年生	2・3 年生		
	全学科	普通科総合コース	普通科探究コース	生活文化科
科目 名	えびの学 週 1 単位	地域貢献活動 週 2 単位	地域探究活動 週 1 単位	地域支援活動 週 4 単位

- ③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

実施内容	詳細
カリキュラム・マネジメント研修会	本校の探究活動をより深化させるため、教科横断のグループで各教科の実践について協議 →各科目で試行

- ⑤成果の普及方法・実績について

- ・グローバル学習成果発表会の開催（県内外 18 校、市内中学校、地域住民 計 520 名参加）
- ・全国グローバルリーダーズ summit の実施（県内外から 18 校 120 名参加）
- ・宮崎県キャリア教育フォーラム 事例発表
- ・M S E C（宮崎県 SDGs 教育コンソーシアム）参画
- ・立命館宇治高校 WWL コンソーシアム事業研究校報告会 事例発表
- ・宮崎県立宮崎南高校職員研修 事例紹介・ワークショップ
- ・長崎県立松浦高校職員研修 事例紹介・ワークショップ
- ・大分県立宇佐高校 総合的探究の時間（事例紹介・ワークショップ）
- ・大分県高大連携シンポジウム 事例発表
- ・S C Hシンポジウム 事例発表
- ・全国高校生マイプロジェクトアワード九州サミット 事例発表
- ・えびの未来カフェの開催（本校生＋地域住民 90 名参加）
- ・えびの市民交流喫茶 事例紹介
- ・みやぎん経済研究所「調査月報 12 月号」寄稿（高等学校を核とした地域創生）
- ・視察受入（鹿児島県立鬼界高校、福岡県立須恵高校、熊本県立上天草高校、鹿児島県立串木野高校、長崎県立松浦高校、島根県立益田商業高校、静岡県立三島南高校、栃木県立馬頭高校、鹿児島県立指宿高校、和歌山県議会、福岡県議会）

（３）研究開発の実施体制について

- ①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・魅力化コアチーム

魅力化地域推進委員会と教師で構成される魅力化校内推進委員会の構成員による魅力化コアチームをつくり本事業の要となる組織とする。

- ・魅力化校内推進委員会

地域協働推進校としての研究開発を学校全体の取り組みとして推進する組織である。校務分掌の主任、学科・コース各担当教員により構成し、カリキュラム開発や授業づくりの研究、事業に関して等を校内の教師への浸透させる。また、事例発表やW E Bの活用、学校説明会等々、外部発信も担当する。委員には、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員を構成員に含める。

・魅力化地域推進委員会

飯野高校を守り育てる会（コンソーシアム）内に本校との連携に関する実務委員会として事業に関するコンソーシアム内の調整、地域との連携活動を集約し、本校との連携が円滑に進むよう調整等を行っている。委員には、地元事業者に加え教員 1 名、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員を構成員に含めている。

・学科・コース会議

学科・コースごとにすべての教師が構成員となり研究プログラムに基づく実践を行うための連絡会議である。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

事務局（進路指導部）に所属する教師が企画・立案を行い、魅力化コアチームに所属する教師が地域のコアチーム構成員とカリキュラム開発を行う。

また、学科・コース会議には、すべての教師が学科・コースごとに所属し、実践する上での学習内容や指導法を共有する。また、これらの活動を支援するため、事務局に域協働学習実施支援員、魅力化コアチームにカリキュラム開発等専門家を配置して、活動の支援助言等を行う。

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

進路指導部を事務局として地域協働推進校としての研究開発全般のマネジメントを中心に担う組織としている。教師と地域協働学習実施支援員で構成する。魅力化コアチームへの原案提示、事業の企画調整、関係機関との連携調整、予算の執行等を担当する。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

8 目標の進捗状況、成果、評価

事業指定を受けて、全学科・コースで取り組みを始めたことにより生徒たちの活動が非常に活発になった。これは、実践を通じた生きた学び（探究的な学び※下図は本校の探究のサイクル）から得られるものではないかと手ごたえを感じている。類型に応じた 7（2）④類型に応じた取組みにも記載している通り 3 学年では 30 以上の地域におけるプロジェクトが展開された。これは、コンソーシアムが実務的にも動き始めたことで地域と高校の結びつきがこれまで以上に強まったことが大きい。その成果を報告するグローバル学習成果発表会では、県内外から 520 名の参加があり会場は満席となった。また地域と協働した探究活動の展開により、本年度の県内への就職状況は 77%（目標値 80%）と設定目標に非常に近い数値となり過去 10 年で最高であった。次年度以降は、これらが確固たるものとなり、他の目標も達成できるよう取り組んでいきたい。



9 次年度以降の課題及び改善点

初年度を終え、生徒たちの本事業による取り組みが高校を核とした地域の魅力化につながっていると感じている。これは、実践型地域課題解決学習により地域とのつながりが格段に増えて生徒や職員を通して「社会に開かれた高校」になってきていることが大きいといえる。

一方で教科との接続をしっかりと行い学習活動がより発展的なものとなるよう次年度以降取り組んでいきたい。



1) えびの学

・「えびの学」(探究の基礎) 1年生全学科共通 週1時間

総合的な探究の時間を代替する学校設定科目で、1年生82名が対象であった。内容としては、2年時以降の探究活動にスムーズに移行できるよう地域で探究の基礎を学ぶということをコンセプトに「地域課題を考える」「問を立てること」「情報収集」の方法を学ぶとともに、本校で行う「えびの青年会議所フォーラム」で地域の大人とのクロストークなど地域課題を考える上で必要な視点を獲得する時間とした。その上で地域実習による実践を通して、実際の現場から自ら問を見つけ、情報を整理分析する力を身につける。その後、実習成果発表会を行うが、準備や発表を通して論理的に考え表現することやプレゼン作成力を身につける。年間を通して、地域の未来・自分の将来を考える。

月	実施項目	場所	連携先	教科連携
4	地域について知る（地域のフィールドワーク）	えびの市内各所	えびの 青年会議所	各教科において、特性を活かし探究との接続を意識した実践を行う
7	地域課題を考える① ・問を見つける ・情報を収集する	本校		
	えびの青年会議所フォーラム			
	地域課題を考える② ・情報の整理分析 ・論理的に考え、表現する→探究マップの作成			
9	地域実習に向けて ・問を見つける ・情報を収集する	事業所 本校	えびの市内 各事業所	
10	地域実習 ・実際の現場から問を見つけ情報を整理分析する	各事業 所		
11	実習成果発表会 ・論理的に考え、表現する→プレゼンの作成	本校		
12 1 2	地域の未来・自分のミライを考える ・問を見つける→テーマの設定・情報の整理分析	本校	えびの 市役所	
3	えびの学成果報告会 ・論理的に考え、表現する→ルーブリック評価	本校		



地域実習



実習成果発表会

2) 地域貢献活動

・「地域貢献活動」2・3年生 普通科総合コース 週2時間

学校設定科目で、普通科総合コース2・3年生52名が対象であった。内容としては、2年4～6月まで「えびの市を考える」をテーマに様々な分野から地域について学び、7月に実習前準備を行う。さらにこの活動のメインである「地域実習」(2年9月～3年7月)では、約1年間活動の中で地域で感じる課題テーマを設定して、その解決に向けた実践を行った(グループ協議(目標設定)→実習→振り返り(課題→解決策)※繰り返す)。

その後、3年9月～12月で活動全体の個人レポートの作成、発表会に向けたプレゼン資料やポスター作成を行うとともにグローバル学習成果発表会の実行委員会を組織して企画・運営をすべて行うものとした。このことにより、実践を伴う様々な経験から地域の未来・自分の将来を考える時間とした。

活動テーマ

- ・地域の人がいやすい店舗(Aコープ) ・健康に育つ保育の環境づくり(飯野保育園)
- ・利用者のストレス軽減(グループホームあおい)
- ・地域の人が親しみやすい図書館(えびの市民図書館)
- ・えびのの特産品を広めるために(道の駅えびの)
- ・レクレーションで利用者を笑顔に!(ほうよう)
- ・未来を担う児童が育つ環境づくり(上江小学校)
- ・子どもたちを導く環境づくり(第二和光幼稚園)
- ・「あそび」から学ぶ環境づくり(飯野小学校)

年	月	実施項目	実施場所	連携先	教科連携
2	4	えびの市を考える①～⑥ ・市役所出前講座による対話型研修	本校	えびの市役所	各教科において、特性を活かし探究との接続を意識した実践を行う
	6				
	7	地域実習に向けて→テーマ設定			
3	9	地域実習①～⑱ グループ協議(目標設定)→実習 →振り返り(課題→解決策)	各事業所	えびの市内 各事業所	
	3				
	4	地域実習⑲～⑳	各事業所	えびの市内 各事業所	
	7	グループ協議(目標設定)→実習 →振り返り(課題→解決策)			
3	9	地域実習成果レポート作成 発表プレゼン作成 グローバル学習成果発表会企画会議	本校		
	1				
	1	グローバル学習成果発表会	えびの市文 化センター	えびの市	
【連携事業所(実習施設)】えびの市役所、えびの市立飯野小学校、社会福祉法人慶和会、医療法人武雄会、株式会社エコープみやざき、えびの市民図書館、JAえびの市、道の駅えびの、えびの市立上江小中学校					



3) 地域探究活動

- ・地域探究活動 2・3年生 普通科探究コース 週1時間

学校設定科目で、普通科探究コース2・3年生 68 名が対象であった。身の回りや地域課題から問を見つけ、テーマ設定を行いプロジェクト化するものである。テーマ設定や活動に関する基本的な方法についてワークを実施し、地域でプロジェクトを実践することで課題解決をはかる。その際、多様な人々、機関、団体との協働や連携をすることで自ら視野を広げ行動を起こしていく力を身につける内容とした。また、校内で実施されるグローバル学習成果発表会をはじめ、高校生の全国サミットをはじめ県内外の高校生との対話をする機会や実など域内にとどまらない様々な経験から地域の未来・自分の将来を考える時間とした。

探究テーマ

- ・子育て支援プロジェクト「NOG I K U」
- ・JR 吉都線活性化プロジェクト
- ・地域で生み出す国際協力
- ・地域医療を知る
- ・スポーツで地域とのつながりを
- ・ふれ愛～福祉プロジェクト～
- ・クーポンで地域活性化
- ・おなやみOPENプロジェクト
- ・地域における看護医療とは

年	月	実施項目	実施場所	連携先	連携教科
2	4	地域課題から問を見つけテーマ設定する	本校 えびの市内 各所	えびの市内 各所	各教科において、特性を活かし探究との接続を意識した実践を行う
	6	・自分グラフ作成・フィールドワーク ・テーマ設定・情報収集及び整理・分析 ・3年生によるポスターセッション ・実践に向けて課題解決策を考える			
	7	実践する①			
	9	実践①から実践②へ			
	10	・えびの未来カフェ ・実践①の評価と新たな問を見つける			

	11 3	実践② ・実践②の評価と新たな問を見つける			
	4 6 7	課題解決に向けた実践③～④ ・ポスターセッション			
3	9 12	個人レポート作成 発表プレゼン作成	本校		
	1	グローバル学習成果発表会	えびの市文化センター	えびの市	
【連携・協力先※実績】 えびの市観光協会、えびの市社会福祉協議会、西諸医師会、えびの共立病院、あかり助産院、京町・吉田温泉みなほ会、えびの市鹿協会、えびの市観光商工課、えびの市市民協働課、えびの市起業支援センター、えびの市商工会、えびの市地域おこし協力隊、ドッグラン&カフェ 咲桃虎、京町観光ホテル、九州電力、国土交通省川内川河川事務所京町出張所、環境省えびの自然保護官事務所、株式会社 電通九州、北きりしま田舎物語推進協議会					

4) 地域支援活動

「地域支援活動」 3年生 生活文化科 週4時間（※1～2年生→家庭科専門科目内実施）
・2年生までは、専門科目の中ですべての生徒が家庭科の専門力を活かしたすべてのプロジェクトに携わり、多様な人と関わりながら実践から学びをえる。この学びを3年生で「地域支援活動」と位置付ける課題研究の中で活かして、自らプロジェクトをたちあげ実践を行う。内容としては、5～10月に週2時間の施設実習を行い専門教科の学びから課題解決をはかる活動としている。

活動テーマ

- ・正一：ご当地グルメコンテスト試作づくり マスコット作成 S A P ラベルづくり
- ・S A P：スイートコーン、トマト、ピーマンづくり 各農場での活動
- ・A コープ：P O P 作成、ご当地グルメコンテスト試作づくり
- ・R I Z H A I R：ヘアゴム・アクセサリーの作成→お客さんへのプレゼント
- ・グループホームあおい：コースター作成 月ごとのカレンダーに塗り絵付け
- ・ほうよう：ティッシュケース作成、デイサービス利用者向け「お楽しみ会」企画
- ・飯野保育園：壁飾り作成、水遊び道具の開発、ボタン付け練習用キット作成 など

年	月	実施項目	実施場所	連携先	連携教科
2		※2年次までは、専門科目の中ですべての生徒がすべてのプロジェクトに関わる。 科目名 ○フードデザイン →S A Pと連携した地域特産物開発 ○ファッション造形基礎 →子育て応援プロジェクト（小物作り） ○発達と保育 →子育て応援プロジェクト（運動会企画） ○生活美学	本校 えびの市内各所	えびの市内各所	各教科において、特性を活かし探究との接続を意識した実践を行う

		→高齢者支援プロジェクト			
3	4 7	地域実習①～⑩ グループ協議（目標設定）→実習 →振り返り（課題→解決策） ※上記を繰り返し、各事業所における課題から専門領域を活かした解決策の提案、実践を行う。	各事業所	えびの市内 各事業所	各教科において、特性を活かし探究との接続を意識した実践を行う
	9 12	個人レポート作成 発表プレゼン作成	本校		
	1	グローバル学習成果発表会	えびの市 文化センター	えびの市	
【連携・協力先※実績】 えびの市子育て支援センター、えびのボランティアクラブ、えびの市立飯野小学校、えびの市立飯野中学校、えびの市立真幸小学校、J A えびの市青年部、J A えびの市女性部、えびの市出身プロモデル（増元美喜氏）、裏千家、えびの市 SAP 会議、えびの産業文化祭実行委員会、えびの市社会福祉協議会、飯野保育園、社会福祉法人慈愛会					

『地域とともに』
～私たちの学びの財産～

宮崎県立飯野高等学校
生活文化科 3年
壹岐 美咲
川東 亜美
木浦木 心咲

飯野高校



1期生

家庭科

地域支援活動

積み重ねが大切！！

実践活動1
地域支援活動

これまでの学びを活かし、
地域に私たちの学びを還元する活動

今年度
10事業所

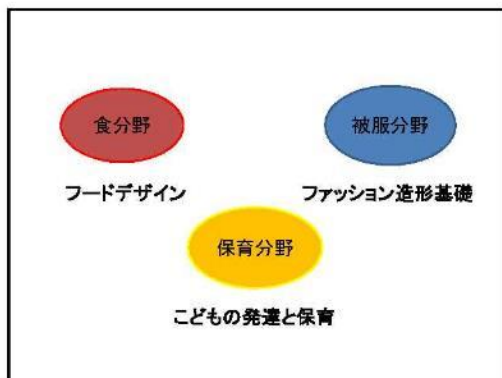
地域支援活動の体験内容、
活動から身に付けたことを
報告します！！！！

家庭総合

生活していくための学び

生活産業基礎

日常を豊かにするための学び



- 食分野
- ・正一
 - ・A-COOP
 - ・飯野高校 × SAP



主な活動内容

学校菜園

- ・土づくり
- ・苗植え

ビニールハウス組立



校外学習

キャベツ・ゴボウ畑見学
立久井農園

ニンジン畑の土起こし

トラクターの試乗

カラーピーマンの収穫
本田農園

ピーマンの収穫



エネルギーの源
(A-COOP)

活動内容

- ・袋詰め
- ・ラップ包み
- ・品出し
- ・前出し
- ・バック詰め
- ・果物詰め
- ・消費期限確認
- ・POP作成



学んだこと

- ★お客様の事を第一に考えサービスを行う
- ★時間を有効活用する
- ★元気な挨拶を心がける



被服・福祉分野

RIZHAIR

グループホームあおい
シルバーケアステーションほうよう



主な実習内容

- ◆ 髪を掃く
- ◇ ロッド洗い
- ◆ 外掃除
- ◇ 洗濯（タオル・クロス）
- ◆ お茶出し
- ◇ 食器洗い
- ◇ プレゼント提供



プレゼント作成

～シュシュ&ヘアゴム～




グループホームあおい

清掃（部屋・トイレ等）
コースター製作
カレンダー塗り絵 など




シルバーケアステーション ほうよう

ディサービス：
利用者様との会話、リハビリ体操などの
レクリエーション

ショートステイ：
イベント企画
お茶出し

作って持っ
てい
きました



学んだこと

- ★積極的に行動することの大切さ
- ★掃除することの大切さ
- ★コミュニケーションの大切さ



保育分野

飯野保育園
第二和光幼稚園
図書館
飯野小学校

スマイルいっぱい！！

飯野保育園

主な活動内容

- ・食事介助
- ・トイレ掃除
- ・本棚整理
- ・窓ふき
- ・壁面づくり
- など...

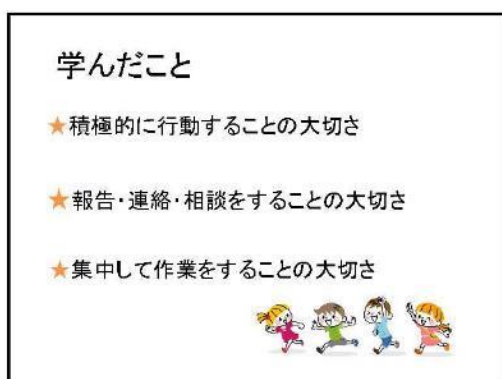
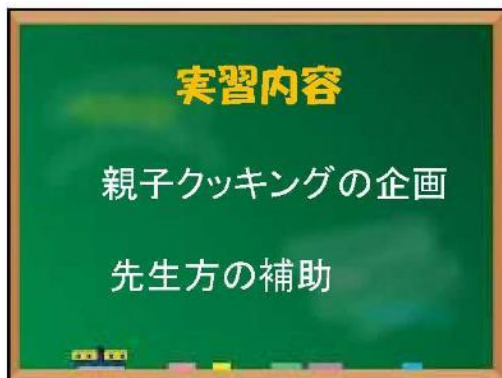
笑顔あふれる
第二和光幼稚園

実習内容

- ・読み聞かせ
- ・掃除(玄関掃除
教室掃除)
- ・制作物作り
- ・子供たちと
触れ合う

School that full of smiles

～笑顔で溢れている学校～



メニュー考案



試作



SAPの協力！食材提供



CM撮影



グルメコンテスト当日



☆大成功☆



田植えと稲刈り



飯野小学校

飯野高校生活文化科

えびの産業祭に3Cが出店しました

・秋の実りごはん

・シフォンケーキ



ココロ



フリン

1Cが今年度収穫した新米です！

前日準備



活動の様子



感じたこと

- ・販売商品は見た目が勝負
- ・事前準備が重要
- ・嗜好に合わせ販売する
- ・明るく元気に接客

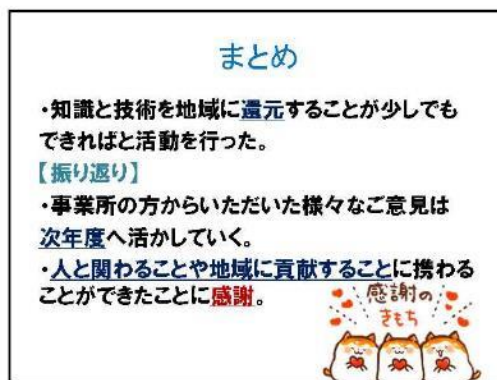


実践活動 3
子育て支援活動
お楽しみ会

子育て支援センター

飯野高校生活文化科





5) 全国グローバルリーダーズ summit

本校では地域課題（社会課題）を自ら解決を図り実践できる力を養い、地域で活躍するグローバルヒーローの育成を目指して実践型地域課題解決学習の研究開発に取り組んでいる。その一環で、「全国高校生マイプロジェクトアワード」をはじめとした全国の高校生が集う学び合いの場に代表生徒が参加している。参加した生徒は、自分たちが持っていない視点で活動する高校生や大人と対話をする事で大きな刺激を受け、帰校後に活発に探究活動を展開している。このうち、広島県立大崎海星高校で開催された「S C Hシンポジウム西日本」に参加した生徒2人が中心となって、

- ①多くの飯野高生に同じ経験をしてもらうこと
- ②全国の高校生をはじめ様々なセクターの人が飯野高校に集まる貴重な機会の創出
- ③宮崎県えびの市（本校が所在地）へ足を運んでもらうことで観光振興などの効果が得られる
- ④飯野高校の魅力発信
- ⑤参加高校生が活動の幅をさらに広げ、次のチャレンジを創出する場

を目的に「第1回全国グローバルリーダーズ summit」を開催した。探究する全国の人が一堂に会し、各地域への意志ある人材の育成にもつなぐ場を飯野高生が主体となって実現した本後発の全国サミットである。参加者がそれぞれの地で取り組みを紹介したり、対話によって創造的な場をつくり、新たな化学反応を起こすことで様々な視点で社会課題に挑むグローバルリーダーを生み出していこうというものであった。全国16都府県から120名の参加があり、「グローバル」な視点で活動する高校生、大学生、高校教諭、行政職員、民間企業、NPOなど様々な方が一堂に会し越境的な学び合いの場となった。

3日間の概要は以下の通りである。

- 1 共催 宮崎県教育委員会 後援 えびの市教育委員会 A P E えびの
- 2 期日 令和2年1月10日（金）～12日（日）

第1日目 会場：えびの市文化センター	
13：00	開場
13：30～16：00	飯野高校グローバル学習成果発表会
18：00～20：00	生徒交流会（真幸コミュニティセンター）
第2日目 会場：えびの市内、宮崎県立飯野高等学校	
9：30～10：10	オープニング
10：10～12：40	高校生プロジェクト事例発表、未来カフェ（ワールドカフェ①）
12：40～13：30	昼食・休憩
13：30～15：00	講演会／探究学習会
15：10～16：30	えびの市内ツアー（飯野高生による探究活動見学含む）
18：00～20：00	生徒交流会（真幸コミュニティセンター）
第3日目 会場：宮崎県立飯野高等学校	
8：45～11：00	未来カフェ（ワールドカフェ②）、Nextアクションの発表
11：00～11：30	クロージング

1日目 グローカル学習成果発表会 2019

3年間の活動成果を発表するもので、えびの市文化センターで開催している。本年度は、地元の中学生をはじめ、県内外から300名を超える方々が参加し、会場は満席となった。その会場で地域貢献活動、地域探究活動、地域支援活動に加え、海外への研修に参加した生徒など約80名の生徒がステージにたち発表、表現できたことは生徒たちにとって学び多きものになったと思う。また、この発表会は企画・運営を普通総合コース3年の生徒たちが行っていることも挙育効果は大きいと考えている。



①地域貢献活動

1年間の長期キャリア実習から地域課題を考え実践し貢献する活動成果を実習事業所ごとに以下のテーマで発表した。

活動テーマ

- ・地域の人が使いやすい店舗（A コープ）
- ・健康に育つ保育の環境づくり（飯野保育園）
- ・利用者のストレス軽減（グループホームあおい）・地域の人が親しみやすい図書館（えびの市民図書館）
- ・えびのの特産品を広めるために（道の駅えびの）・レクレーションで利用者を笑顔に！（ほうよう）
- ・未来を担う児童が育つ環境づくり（上江小学校）・子どもたちを導く環境づくり（第二和光幼稚園）
- ・「あそび」から学ぶ環境づくり（飯野小学校）

②地域探究活動

社会課題の解決に向け、地域を超えて考え実践活動を通し、解決策を探る活動成果発表で10プロジェクトのうち、3グループが発表を行った。

発表グループ

- ・子育て支援プロジェクト「NOG I K U」
- ・JR 吉都線活性化プロジェクト
- ・地域で生み出す国際協力



ポスター掲示

- ・地域医療を知る ・スポーツで地域とのつながりを ・ふれ愛～福祉プロジェクト～
- ・クーポンで地域活性化 ・おなやみOPENプロジェクト ・地域における看護医療とは

③地域支援活動

生活をデザインする支援を、3年の実践で培った専門力を用いて地域へアウトプットする活動を行った。半年間（毎週2時間）、事業所での実習を通して下記のテーマで活動を行った成果を報告した。

- ・正一 ：ご当地グルメコンテスト試作づくり マスコット作成 SAPラベルづくり
- ・SAP：スイートコーン、トマト、ピーマンづくり 各農場での活動
- ・A コープ：POP作成、ご当地グルメコンテスト試作づくり

- ・ R I Z H A I R : ヘアゴム・アクセサリーの作成→お客さんへのプレゼント
- ・ グループホームあおい : コースター作成 月ごとのカレンダーに塗り絵付け
- ・ ほうよう : ティッシュケース作成、デイサービス利用者向け「お楽しみ会」企画
- ・ 飯野保育園 : 壁飾り作成、水遊び道具の開発、ボタン付け練習用キット作成
- ・ 第二和光幼稚園 : 運動会の内容検討、盆踊りの花づくり ・ 飯野小学校 : 親子クッキング企画
- ・ えびの市民図書館 : 雑巾 10 枚提供、指人形作成、ぬいぐるみの補修、ブックバッグ製作

④海外研修報告

えびの市の支援事業で 8 月 21 日から 5 日間、中国の長春市で現地の高校生との交流や文化について学んだ。初の海外で不安があったがイメージとは違い想像を大きく超える世界が広がっていたこと、学んだことを実際に体験したことを報告した。また、宮崎空港振興協議会主催の「台湾への修学旅行プロデュース大会」で優勝した 1 年生グループによる発表では、台湾の文化について学び、日本にはない視点で地域活性化に活かせないか研究し、えびの市と同じく温泉文化があることに着目し報告し、今後の地域探究活動につなげていくことを報告した。



2～3日目 グローカルリーダーズサミット

オープニング



校長あいさつ、実行委員長あいさつの後、飯野高生によるアイスブレイクが行われた。オープニングから生徒たちによる司会で進んだ。

冒頭から和やかな雰囲気ですミット 2 日目がスタートした。

高校生プロジェクト事例発表



全国から集まった高校生の取り組みを知ろうと各校でのプロジェクトについて紹介があり、それぞれのブースに集まった参加者からは高校生とは思えない取り組みに驚きと様々な質問が出て最初のプログラムから活発な意見交換が行われた。

事例発表校

- ・ 立命館宇治高校
- ・ 筑波大学付属視覚支援学校
- ・ 兵庫県立生野高校
- ・ 広島県立大崎海星高校
- ・ 宮崎県立飯野高校

未来カフェ（ワールドカフェ①）



高校生の事例発表後、高校生、大人混在のグループで発表に関する感想の共有を行った。それぞれが率直に感じたことを対話できたことで高校生も大人の壁がない雰囲気を作る時間となった。

その後、「A I 時代だからこそ必要なモノ・コト」をテーマにワールドカフェを行った。当日取材にきていたM R T 宮崎放送のアナウンサーも加わり、高校生からは「A I が発達すればアナウンサーの職業はどうなるのか？」など様々な問が出され、それぞれの考えるモノ・コトが出された。

講演会



午後は、高校生は第 8 回起業家育成セミナーを飯野高生と一緒に受講。(株)アビリティトレーニングの代表取締役の木下晴弘氏から『きみたちに伝えたい「幸せの法則」』と題し、講話が行われ、感謝・信頼・愛を得る人生にするため、他人を喜ばせる人生を送ってほしい！！と熱く話され、高校生からは気持ちの持ち方や木下さん自身がなぜそう考えるようになったのかなど多くの質問が飛び出していた。

大人の探究学習会



高校生が起業家セミナーの時間、探究を学ぶ大人の会も同時開催された。会では、まず大正大学地域構想研究所の浦崎太郎教授より「なぜ今、高校生が地域で探究なのか」をテーマに講話を聞き、その後、広島県立大崎海星高校（兼田教諭、取釜氏）の事例発表、オンライン家庭教師事業を展開している株式会社バンザン（常務 横山氏）による個別学習の効果など探究を進める上でのヒントとなる時間となった。発表後は参加者から質問や活発な意見が出る時間となった。

えびの市内ツアー（J R 真幸駅、探究活動見学）



講演会後は、えびの市内へバスで移動し、J R 真幸駅を散策した。ここは、宮崎県内最古の駅で一昨年 100 周年を迎えたところでもある。構内の駅名にちなんだ「幸せの鐘」など参加者は散策を楽しんだ。その後は、真幸アリーナで飯野高生の探究活動の見学などを行い、1 日目が終了した。

その後、生徒たちは真幸コミュニティセンターで交流会を開き、えびの産のものを使ったカレー作り、夕食交流会で夜まで親睦を深めた。

未来カフェ②、Next アクション宣言



最終日は、前日に提出された10のテーマごとに分かれて対話の時間。思い切り話を深めてもらおうと2時間近くフリートークの時間となった。様々なテーマで話が進んでいた。中には、これからの高校教育について高校生と大人が一緒に話をするなど非常に興味深いものもあった。印象的だったのは、高校生が終了時間になってもまだ話足りないような状況で、その後の全体共有では各校の生徒たちが対話を通して感じたことや考えたことを堂々と発表していた。

最後は、3日間を通して次に自分が起こしたいアクション決めて、Next アクション宣言。グループ内で大人も高校生も自分のアクションに対する思いを述べ、全体でも数名の代表者がアクションプランと3日間のサミットを通して感じた想いを語る時間となった。



アクション宣言を手を全員で記念撮影

参加者所属団体

筑波大学付属視覚支援学校、神奈川県立山北高等学校、富山県立富山東高等学校、三重県立飯南高等学校、立命館宇治高等学校、大阪府立渋谷高等学校、兵庫県立生野高等学校、岡山県立和気閑谷高等学校、広島県立大崎海星高等学校、福岡県立浮羽究真館高等学校、鹿児島県立大口高等学校、鹿児島純心女子高等学校、鹿児島県立国分高等学校、鹿児島県立川辺高等学校、宮崎県立高千穂高等学校、宮崎県立宮崎北高等学校、宮崎県立本庄高等学校、宮崎県立妻高等学校、株式会社バンザン、ベネッセコーポレーション、株式会社ライセンスアカデミー、新富町地域おこし協力隊、NPO法人牟岐キャリアサポート、伊佐市地域おこし協力隊、宮崎県キャリア教育支援センター、黎明学舎、大正大学、宮崎大学、北九州市立大学、九州国際大学、上越教育大学大学院

主催である飯野高校生のコメント

全国グローバルリーダーズ summit 発起人 益山 綾

昨夏に広島県で開催された SCH シンポジウムに参加し、私自身感じた地元に対する新たな発見だったり「自分も何か挑戦したい」などといったたくさんの気づきを参加していただいたみなさんに感じて欲しいと思い、このサミットを開催するに至りました。自分たちで1から企画して初めて開くサミットにもかかわらず全国各地より様々な人に集う場となりました。

参加していただいたみなさんにあらためて感謝申し上げます。

私たちとしては、参加していただいた皆さんにとって未来につながる場に、自分自身も新しい発見をつかむ場にできたと思っています。



全国グローバルリーダーズ summit 発起人 中村 千笑理



夏に広島に行き「西日本シンポジウム」参加した際に、実際に飛び出すことの大切さ、多様な方々と話し合うことの重要性を知り、その体験がすごく自分に刺激を与え、考えを変えてくれたため、実際に自分たちで「学びの場」を作り様々な人と交流したい！！と思いこの企画をすることにしました。

多くの皆さんの協力で無事開催できたことがとても嬉しいです。

参加していただいた皆さんが何か一つでも学び、未来へすすむ場になっていたらいなと思います。これからまた全国の人をつなぐ場づくりをしていきたいと思っています。

全国グローバルリーダーズ summit 実行委員 竹之内 愛佳

私はクラスメイトが参加したSCHシンポジウムでの経験や思い、それを通じた今後の活動を聞き、私も一緒に様々な人が集う学びの場を作りたいと思い参画しました。今回のようなサミットを作り上げるのは初めての経験で戸惑うことも多く皆さんにとって良かった思えるような企画にできたか、不安もありましたが自分たちができることを精一杯やって最高の場にできたのではないかと考えています。



全国グローバルリーダーズ summit 実行委員 湧水 葉月

地域探究活動の授業で広島のシンポジウムについてクラスメイトから話を聞きました。それをえびの市でも開催したいという想いの熱量を私も共有したいと思い一緒に企画を進めてきました。初開催でしたが、自分たちなりに企画したことで参加者全員の学びの場を作れたと思っています。全国から集うたくさんの中間と交流できたことは私の財産となりました。

参加いただいたみなさん本当にありがとうございました！

生徒たちが発案し、企画・運営を行った全国グローバルリーダーズ summit は



3 日間で全国から 100 名以上の方に参加いただき最良の学びの場を作れたのではないかと感じている。

まず、参加者の多様性である。今回の参加者は当初の企画通り全国からの高校生、教職員の他、大学生、大学教授、企業、NPO など教育に携わるさまざまなセクターの方々が集ったことで対話や交流が深まった。実際、たびたび高校生が発言する機会があったが大人が感心するほどの内容が多かった。全国では高校生だけのサミットが多く開催されているが、それらと異なるサミットとなったのは間違いない。

それは以下の、参加高校生の感想からもうかがえる。

3 日間ありがとうございました。飯野高校生の方々の熱意を間近で感じることができ、とても刺激を受けました。また、大人も大学生も高校生もまじっての討論ではいろいろな世代の考え方を知ることができ、とてもおもしろかったです！帰ってからも、飯野高校生や他の学校の方々に負けないよう全力で頑張ります！

3 日間ありがとうございました！実はこのようなサミットというものに参加するのは初めてだったのですが、日頃体験することのない大人、大学生、高校生の混ざった話し合いに参加することができ、多くの発見、これからの高校生活へのアクションを起こそうと思える経験ができました！ぜひ実践したいと考えています！また機会があればお願いします！

次に、飯野高生が「自分事」として取り組んで開催できたという点である。高校、地域の協力を得てわずかな期間で実践まで到達できたことは、実行委員の熱意と行動力によるもので生徒たちの成長は著しいものがあった。探究活動をすすめるにあたっては、学習内容のプログラム化や型を与えるものもあるが、それらでは決して学べないことを準備段階から得られたのではないかと思う。それを確信させたのがサミット後のリフレクションであった。探究の時間だけではできなかった実行員全員が放課後に会議室に集まり生徒のみで今回のサミットについて振り返りを行っていた。（下の写真）つまり、サミットを通して探究的な学びが生徒たちの中に自然にできていた。



今回、初の試みとして行われた全国グローバルリーダーズ summit であるが、次年度以降も継続的に開催していくことが生徒たちの中で確認されている。教員としては、生徒たちを最大限サポートし、こうした主体的な行動や学びが、飯野高校の文化として全国の高校と共有し、広げていくことができればと考えている。

※当日の様子は、宮崎日日新聞で報道され、MRT 宮崎放送の番組「みらい みやざき まなび隊」で放送された。放送番組は下記サイトで公開されており視聴可能である。

<https://mrt.jp/television/manabi/?contents=movie>

その他の活動

1) WWL コンソーシアム連携校

本年度より本校は、立命館宇治高校を拠点校とする文部科学省『World Wide Learning コンソーシアム構築推進事業』（WWL）のALネットワーク校となった。これにより、生徒や教員が相互に各校へのプログラムに参加することが可能となった。この事業は、Society5.0の時代に向けて、イノベティブなグローバル人材を育成するため、高校、大学、企業や国際機関等が協働して、先進的カリキュラムの研究開発・実践、テーマに関連した高校生国際会議の開催等の、高校生へ高度な学びを提供する体制整備を進めることが目標とされている。その中には、共同で新しいカリキュラムや研修ことも含まれており、本年度も相互に研修に参加するなど連携を深めた。

- ・全国高校生SRサミット 7月31日～8月2日（立命館宇治高校、立命館大学）※1
- ・全国グローバルリーダーズ summit 1月10日～12日（飯野高校、えびの市文化センター）
- ・フィリピンスタディツアー 3月9日～12日※臨時休校により中止

※1 全国高校生SRサミットに参加した本校生のプロジェクト

京町・吉田温泉郷活性化プロジェクト（第1回全国高校生SRサミットに参加）

衰退する県内唯一の温泉郷があるえびの市の観光振興を図ろうと温泉水を活用した「えびのスプラッシュフェス」を開催。企画書を持ち込みプレゼンし、えびの市観光協会から事業費を獲得、実践に至った。また、企画段階から温泉郷の女将さんでつくる「みなほ会」と参加者の温泉利用を促すための温泉券の発行など初開催から充実したものとなった。当日は県内外からの参加者があり賑わった。



子育て支援プロジェクト「NOGIKU」（第2回全国高校生SRサミットに参加）



子どもへの「虐待」が報道される中で子育て中の親のストレス軽減が「虐待」を減らす対策になるのではないかとという仮説から子供と一緒に母親や父親がリラックスできる場を提供。アロママッサージやお昼寝アートなど多彩なプログラムを創っている。えびの市内にとどまらず、隣接する小林市でも活動を行っている。

2) えびの市連携事業

平成22年度に発足した「飯野高等学校を守り育てる市民の会」により基礎自治体である市が県立高校を支援するというこれまでにない取り組みで「公営塾の開設」「奨学金制度創設」など生徒たちの学びの環境は大きく変わり、全国から注目を集めている。加えて、平成20年度より小中高の12年間の中で児童生徒の発達段階に応じた連携型の一貫教育を行っている。隣接する飯野小学校、飯野中学校の飯野高校

の全職員が知・徳・体の3部会に分かれて27の事業を展開している。設置者の異なる小中高が連携し、基礎学力の向上を目指して授業の乗り入れや小中高生と一緒に朝のあいさつ運動、地域の清掃活動、えびの米生産活動（田植え・稲刈り）、児童会と生徒会合同で地域貢献を考える「こどもサミット」など展開されておりこうした活動からも地域連携はすすんでいる。

公営塾「成銘館」。生徒たちは放課後、校内に設置された学習センターを利用している

		月	個別学習
		火	個別学習
		水	授業
		木	個別学習
個別学習	授業の様子	金	授業

3) 全国サミットおよび海外研修

まちづくり甲子園（島根県立隠岐島前高校） 代表生徒2名参加

1. 目的

・島前地域が直面する諸課題に対して挑戦を続ける大人の姿に触れ、共に課題解決について考える中で、課題を解決するために必要な力と、自分の今の力を実感することで、今後の成長目標を持つ。

・お互いの取り組みにおける成果や課題を活かして、島前での課題解決について考えることで、自身の活動の改善の参考にすると共に、高校生によるまちづくりの意義を再認識する。

・地域での活動に取り組む全国の高校生が、交流を通して互いに理解を深め、今後も継続的に支援し合える関係性を築く。



2. 実施概要

・日程

令和元年7月13日（土）～15日（月・祝）

・プログラムスケジュール

7月13日（土）09：30 七類港発 12：40 菱浦着

昼食後プログラム開始

7月14日（日）フィールドワーク、最終発表、フェアウェル BBQ など

7月15日（月）離島 朝一番の高速船乗船で、10：10 本土着

第二回SCHシンポジウム西日本 「地域協働が拓く教育の未来～みんなで円陣を組もう！～」

「高校と地域の協働が高校生の未来と地域の未来を切り拓く」という考えに立ち、高校教諭、行政職員、民間企業、NPO、高校生、大学生等、多様な立場の参加者が対話を通じて学びを深めます。越境的な学び合いの場をつくることで、未来に向けた新たなアイデアを生み出し、次の行動を促すとともに、共に地域×教育を推進する仲間づくりを目指します。

主催：第二回 SCH シンポジウム西日本実行委員会

協力：東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科

【プログラム】 ※内容は変更になる可能性があります

< 1日目 8/19 (月) >

11:00～12:00 開会挨拶&アイスブレイク&チェックイン

12:00～12:40 「高校と地域連携の現状・これからの流れ」

・大正大学地域構想研究所 教授 浦崎太郎氏

13:30～16:20 分科会 事例発表 (2会場×3ターム)

事例発表① 西日本の先進事例から学ぶ高校と地域協働の事例

【ブースA】 島根県立隠岐島前高等学校

【ブースB】 宮城県立飯野高等学校

事例発表② 高校と地域がいかに連携していくか

【ブースA】 岐阜県立吉城高等学校

【ブースB】 認定NPO 法人カタリバ

事例発表③ 広島県内の高校と地域協働の事例

【ブースA】 広島県立御調高等学校

【ブースB】 広島県立大崎海星高等学校

16:35～17:35 振り返りディスカッション

17:35～17:50 OST 説明、ディスカッションテーマ出し

< 2日目 8/20 (火) >

9:00～11:45 テーマ別ディスカッション

11:45～12:30 昼食

12:30～13:20 地域別アクションプラン作成

13:20～13:50 振り返り、まとめ、集合写真

13:50～14:00 閉会の円陣



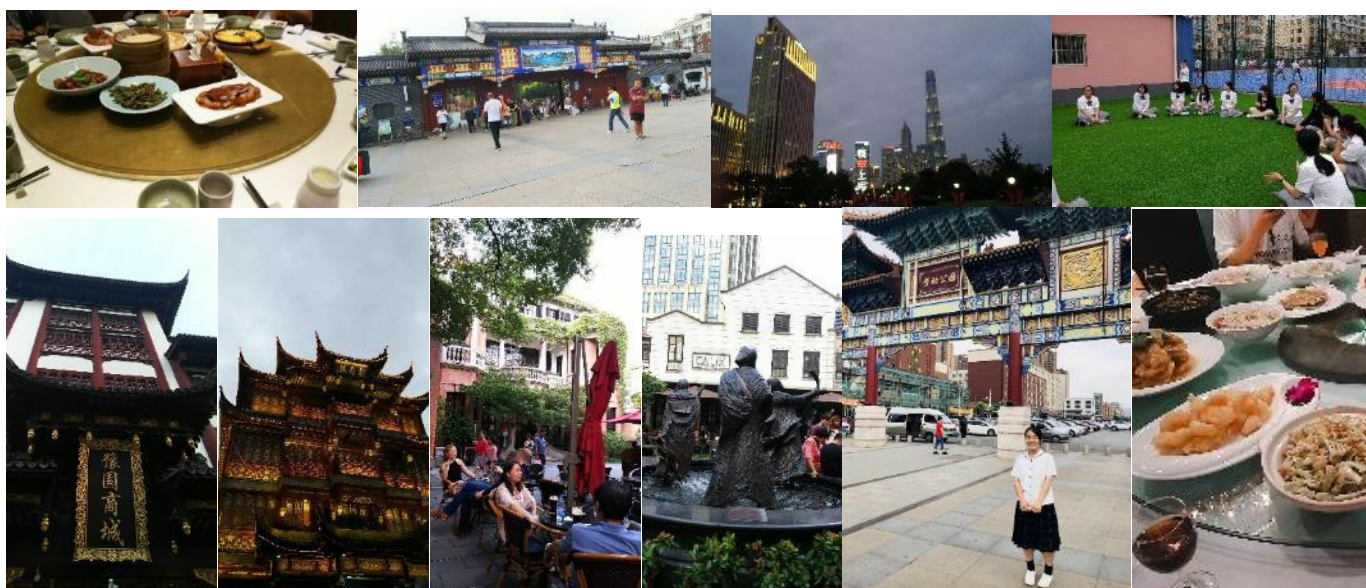
中国長春研修 8月21日～26日

えびの市と姉妹都市である長春市へ研修に4名の生徒が参加した。えびの市内にある日章学園九州国際高校の姉妹校である高校への訪問、ホームステイなどを通して現地の高校生との交流を深めた。参加生徒は、中国に留学に行ったことで変わったことでこれまでとは異なる良い印象を持てたことや、初めての海外だったため、貴重な体験となり、もっといろいろな国に行ってみたい気持ちが強くなったことなど様々な感想を持ったようである。

また、学びも多かったようで中国人の習慣（例えば、中国人は朝が早くて、テレビをあまり見ない、食べ物の味が薄い、お財布を使わない→クレジットカード決済など）から地元へ持ち帰り活かせることはないか考えたようである。さらに現地の文化に触れ中国文化の良さを知るとともに、日本の良さを感ずることにもつながったようであった。



研修中の様子



台湾研修 11月30日～12月4日

宮崎空港振興協議会が主催する「台湾への修学旅行プロデュース大会」に出場した1年生5名が「台湾での学びを地域活性化に活かし隊」をテーマに優勝する快挙を達成して台湾への研修を実践した。台湾の文化について学び、日本にはない視点で地域活性化に活かさないか研究し、えびの市と同じく温泉文化があることに着目して現地の視察等を行った。2・3年生が取り組む探究活動に着目しながら海外の取り組みを自分たちの探究につなげていくという正にグローバルな視点の研修となった。



復興高中の生徒との交流会

十份視察



士林夜市

温泉施設

観光施設



4) 地域団体との連携

カリキュラムの研究開発をする際にも様々な団体との連携を行っているが、地域の事業者や卒業生で構成されるAPEえびのとの連携で本年度、全国グローバルリーダーズ summit や全校高校生マイプロジェクトアワード宮崎大会を開催した。これにより、本校における地域をフィールドとした探究的な学びを県内全体に広げていく一端を担うことができたと考えている。実際、この学びの場に8校130名の高校生が参加して素晴らしい機会となった。



全校高校生マイプロジェクトアワード宮崎大会

関係資料（テレビ、新聞）



UMK 【のびよ！みやざきっ子】 令和元年 9 月 28 日放送「えびのスプラッシュフェス」

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kusuchan/4-kyoikucho/shinchaku/index.html>



MRT 【みらい みやざき まなび隊】

地域のヒーローが大集合！全国グローバルリーダーズサミット 1 月 25 日(土)放送

<http://mrt.jp/television/manabi/?contents=movie>



MRT ラジオ 【んダモシタン西諸 Radio】 1 月 4 日放送

（ＲＣ）温泉太閤会との
暫別50周年を、そののどた
りあつた（ＲＡＣ）中
山からクマの再訪に周
年を記念し、式典と講演会
は20日、あつち市文化センター
であった。約600人出席
し、高校の取り組み発表な
どに目を輝かせた。

式典では田舎会長が「華住
の活動で、町に、国、深め、次世
代に引きつらう。努力と志
と」とあいさつ。創立50年
記念事業として、同市、飯野
高、川村、長成高校等に
協力、同の市立高校長に
目標を手渡した。

「市の市章」 市訓表
委員長田久則さん(68) 市議会
いまだ、今後も培ったノウハウを生かして、活動に力を入れていきたいです。その二はクラブの会費増や若い世代の加入、そびの市全体の活性化につながると思っています。

議員は17人です
取り組まな
ないですが
退していか
いまだ、今
ノウハウを
活動に力
していきたい
二はクラブ
会費増や
若い世代
加入、そ
市の全
活性化
つながる
思っています

議員会は同校生徒から
5日同市の八幡公園で開催
設する、野でもが自身が
に集める、野で場「フレ
」への概要を紹介。三

の概要図

えびのの将来を考えるえびの青年会議所（ＪＣ）のフ
ォーラムは5月31日、同市の
飯野高 柳方修校長、241
人であった。1、2年生計
約160人が参加し、地域活
性化に向け左策について見
聞を交わした。

見聞の末を担う高校生の
士気を育み、地域を盛り上
げる意識を高めようと、20
15年から毎週開いている。

[illegible]

えびの市・飯野高の生徒1
人が企画した、野外で子ども
が自由に楽しめる遊び場「フ
レーパーク」は5日、同市の
八幡丘公園であった。市内を

中心に子ども約50人を含む親子連れ計100人以上が来場。家庭や学校で経験できない「ブル」や木工工作、手足

「やつて良かったと思つた定期的に開いたり、他の地でも開催したりするなど、後も活動を続けていきたいと話していた。(村永哲哉

付いた絵の具で大きな白に好きなものを描くコーナーなど、9種類の遊び場を置。訪れた子どもたちが笑で思い思いに楽しんでいた。企画した生徒の一人、同2年の竹之内深白さん(16)

絵の具や泥を手足に着けはじいたり、木材を使って自由に作ったり。子どもたちは思いどきな遊びを美濃川で満喫していた。えびの市の人囃子や先開けた、野外で子どもが自由に楽しめる遊び場「フレック」。同市・飯野高の2年生4人が企画したイベントで、100人を越える親子連れが訪れる盛況ぶりだった。印象的だったの

が、子どもたち以上に輝く笑顔を
な高校生4人。前日まで準備を迫ら
れ、本当に人が集まるたつたのか
と。喜びを抱えながらの本音だつた
か。喜ぶもひとしおだつたのだら
う。イベント終了後に話しかけた
。「今後定期的な開催を目指す」と
話していた。他地域から開催とほ
しいと要望もあるという。今後の取
り組みが楽しみだ。

-2019.5.14

[illegible]

民が地域の在り方などについて意見
「飯野高校生と語る会」

~8/17



えびの産の食材で優勝を狙う

8月17日に名古屋市のMRTm
icで「アサヒブループレザ
ンツ」の当地グルメコンテスト
2019 in まつり宮崎。が開催
されました。

今回は、岐阜高校生文化学科
の3年生とSAP（若手農業者
団体）が参加した「一飯野
舎」で、農産物加工をテーマに
「えびの野菜や肉を盛り付け
えびの輝の食材をPRし、食
応援をよくしてくださいます

ICT使い合同授業

飯野高と東京・玉川聖学院

えびの市・飯野高と東京・玉川聖学院の合同授業。ICTを使い、英語の授業が行われた。玉川聖学院の先生が、えびの市に訪問し、合同授業を行った。授業内容は、英語の授業で、ICTを使い、英語の授業が行われた。玉川聖学院の先生が、えびの市に訪問し、合同授業を行った。



ICTを使った授業。玉川聖学院の先生が、えびの市に訪問し、合同授業を行った。

えびの市 田植え体験 大変さ実感

飯野小、高が合同



水田に並び、協力して田植えを行う飯野小と飯野高の児童生徒

えびの市の飯野小と飯野高は、同日、合同で田植えを行った。合同で田植えを行った。飯野小と飯野高の児童生徒は、協力して田植えを行った。水田に並び、協力して田植えを行う飯野小と飯野高の児童生徒。



えびの市市長江崎 田植えを指導したえびの市青年部の本部長 英さん(24)

参加者は、合同で田植えを行った。飯野小と飯野高の児童生徒は、協力して田植えを行った。水田に並び、協力して田植えを行う飯野小と飯野高の児童生徒。

学校、地域どう改善 小中高生30人サミット



小中高生の生徒会役員らが参加し、合同で取り組む活動について意見を交わしたサミット

えびの市の飯野小、飯野高、小中高生の生徒会役員らが参加し、合同で取り組む活動について意見を交わしたサミット。小中高生の生徒会役員らが参加し、合同で取り組む活動について意見を交わしたサミット。

吉都線再開へ清掃に汗 えびの、小林で沿線住民ら



沿線住民らが参加したJR吉都線クリーンアップ大作戦

えびの市と小林市で沿線住民らが参加したJR吉都線クリーンアップ大作戦。沿線住民らが参加したJR吉都線クリーンアップ大作戦。

高校生と課題研究

技術向上と6次産業に取り組み



高校生にヒューマンの活用を説明するえびの市SAP会議

えびの市SAP会議。高校生にヒューマンの活用を説明するえびの市SAP会議。

飯野高生 観光列車を企画

吉都線利用増へ 来月3日運行



吉都線の観光列車運行に向けて奔走する飯野高の生徒たち

飯野高生が観光列車を企画。吉都線利用増へ 来月3日運行。飯野高生が観光列車を企画。

地元の魅力堪能ツアーも。地元の魅力堪能ツアーも。地元の魅力堪能ツアーも。



温泉水鉄砲で「ポイ」狙え

えびの市・飯野高（押方）の3年生が企画した、JR吉都線の観光列車を使ったツアーは3日、同市でスタートした。生徒たちは県内外から参加した48人に、吉都線と同市の魅力をPRした。都城駅から観光列車「海幸山幸」の車両に乗り込み、えびの駅で下車後は同市内の観光スポットや温泉な

えびの9チーム60人対戦
温泉水鉄砲を使った水鉄砲大会。えびの市・飯野高の3年生が企画した、JR吉都線の観光列車を使ったツアーは3日、同市でスタートした。生徒たちは県内外から参加した48人に、吉都線と同市の魅力をPRした。都城駅から観光列車「海幸山幸」の車両に乗り込み、えびの駅で下車後は同市内の観光スポットや温泉な

飯野高生企画し観光列車

えびの吉都線の魅力PR
飯野高の3年生が企画した、JR吉都線の観光列車を使ったツアーは3日、同市でスタートした。生徒たちは県内外から参加した48人に、吉都線と同市の魅力をPRした。都城駅から観光列車「海幸山幸」の車両に乗り込み、えびの駅で下車後は同市内の観光スポットや温泉な



車中ではガイド務める

えびの吉都線の魅力PR
飯野高の3年生が企画した、JR吉都線の観光列車を使ったツアーは3日、同市でスタートした。生徒たちは県内外から参加した48人に、吉都線と同市の魅力をPRした。都城駅から観光列車「海幸山幸」の車両に乗り込み、えびの駅で下車後は同市内の観光スポットや温泉な

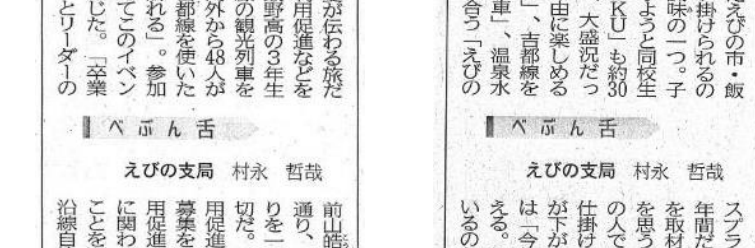
吉都線の魅力発信 飯野高生企画 観光列車



えびの市・飯野高（押方）の3年生が企画した、JR吉都線の観光列車を使ったツアーは3日、同市でスタートした。生徒たちは県内外から参加した48人に、吉都線と同市の魅力をPRした。都城駅から観光列車「海幸山幸」の車両に乗り込み、えびの駅で下車後は同市内の観光スポットや温泉な

飯野高生企画し観光列車

えびの吉都線の魅力PR
飯野高の3年生が企画した、JR吉都線の観光列車を使ったツアーは3日、同市でスタートした。生徒たちは県内外から参加した48人に、吉都線と同市の魅力をPRした。都城駅から観光列車「海幸山幸」の車両に乗り込み、えびの駅で下車後は同市内の観光スポットや温泉な



車中ではガイド務める

えびの吉都線の魅力PR
飯野高の3年生が企画した、JR吉都線の観光列車を使ったツアーは3日、同市でスタートした。生徒たちは県内外から参加した48人に、吉都線と同市の魅力をPRした。都城駅から観光列車「海幸山幸」の車両に乗り込み、えびの駅で下車後は同市内の観光スポットや温泉な

育児励む母親サポート

小林 飯野高生企画し催し



飯野高生が企画した子育て支援イベントで、高校生と楽しく遊ぶ子どもたち

育児に励む母親らをサポートしようと、えびの市・飯野高（押方）の3年生が企画した、子育て支援イベント「NOG IKU」は16日、小林市のTENAMU交流スペースであった。親子連れ約30組が訪れ、充実した時間を過ごした。

育児励む母親サポート

小林 飯野高生企画し催し



飯野高生が企画した子育て支援イベントで、高校生と楽しく遊ぶ子どもたち

育児に励む母親らをサポートしようと、えびの市・飯野高（押方）の3年生が企画した、子育て支援イベント「NOG IKU」は16日、小林市のTENAMU交流スペースであった。親子連れ約30組が訪れ、充実した時間を過ごした。



笑顔があふれたプレーパーク

八幡丘公園で「自然であそぶプレーパーク」が行われました。プレーパークとは、子どもたちが想像力で工夫して遊びを作りだすことのできる遊び場のことです。飯野高校2年生が主体となり行ったもので、今年2回目の開催となります。

会場には、園児や児童、保護者など約50人が訪れ、シャボン玉や泥ボールなど12種のアトラクションを笑顔で楽しんでいました。

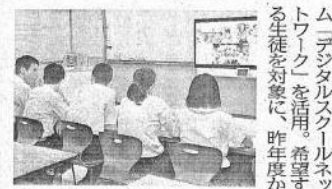


飯野高校生とSAPが出店

宮崎市内、県内26市町村が参加する「アサヒビールプレゼンツ宮崎県地産地消コンテスト2019 in まつり宮崎」が開催されました。

えびの市は、飯野高校生とSAP（若手農業者団体）が考案した「（飯野高校×SAP）青春SAPライス〜霧峰牛を添えて〜」を出品しました。結果は、グルメ部門15市町村中6位でした。コンテスト後「ヒカリキッチン」で2週間ランチメニューとして提供されました。

偏西風
広島や高知の学校結び授業
えびの市・飯野高（柳方）は9月27日、情報通信技術（ICT）を使い、広島県・大崎海星高や高知県・湖北高と合同遠隔授業を行った。写



ら実施している。同日は、2年生計9人が参加。今回は2020年東京五輪にちなみ、五輪の理念などを学んだ。会話はすべて英語。各校が同社を画面で結び、講師が出した問題に生徒が答える形に進んだ。2年の溝口梓さん（17）は「五輪について深く知ることができ、来年の開催がますます楽しみになったと話していた。

交流 中国長春市留学生交流事業

市民協働課 市民協働係 ☎35-1118（直通）



交流会で自己紹介などを行いました



長春日章学園中の生徒と交流を深めました

市では、8月21日から23日まで中国長春市留学生交流事業として中国吉林省長春市を訪れました。これは、飯野高校生が長春日章学園高中（高校）の生徒との交流を通して、お互いの伝統文化を理解し、国際感覚豊かな人材の育成を図ることを目的に行われたものです。

訪問には、教育長、市職員、市民訪問員4人、飯野高校生4人が参加しました。訪問では、長春日章学園高中の入学式に出席。学校での交流会やホームステイを通して交流を深めました。参加した生徒からは「中国の文化や生活などがわかってうれしかった。国境を越えて交流ができた。中国の学生との交流を通して、異文化に触れることができた」「初めての海外でしたが、とても楽しく貴重な体験ができました」などの感想が聞かれました。

えびのブラッシュフェス2019

8/25



子どもも大人もハッスル

京町温泉観光交流センターで「えびのブラッシュフェス2019」が行われました。これは、水鉄砲で行う水合戦で、温泉水を使用しました。今年の飯野高校卒業生が企画し、同校在校生と京町・吉田温泉活性化プロジェクトとともに開催。市内の9つのチームが出場しました。

参加した真幸小学校の児童たちは「みんな協力してできて、楽しかったです。来年もあつたらまた出たいです」と話していました。



自然の中で楽しむ

えびの高原で「霧島山モンテフェス in えびの高原」が行われました。これは、山の日に、霧島山の魅力を存分に味わおうと行われているものです。

イベントでは、シカ革クラフトやジビエ料理教室、スラックライン、郷土館などのトレッキング、BBQ 煮入のたけだバーベキューのBBQ スゴロ敷などさまざまな催しが行われました。



小中高の連携強める

飯野高校で「子どもサミット in 飯野」が行われました。これは、小中高の児童・生徒が集まって協議することで、結束を固めることを目的に行われているものです。

サミットには、飯野小・中学校、飯野高校から27人が参加しました。「より良い学校のために小中高で取り組める活動」「地域貢献活動」について、グループに分かれて積極的な意見交換が行われました。

ぬくもり与える仕事を えびの 高校生と市民意見交換



参加者は、4人の班に分かれ、メンバーを入れ替えながら、AI（人工知能）の時代、人々の求められている仕事、そのために必要なスキル、そのために必要な教育などについて、積極的に意見を交わした。参加者は、「1人1人の個性を活かすことが大切だ」という意見を述べた。また、「AIは、今後ますます重要になる」という意見も多かった。また、「AIは、今後ますます重要になる」という意見も多かった。また、「AIは、今後ますます重要になる」という意見も多かった。

について意見を交わす
 「全国グローバルリーダー
 サミット」は12日までの
 3日間、えびの市・飯野高
 押方校長、241人
 であった。全国18校の生徒

学芸部 大学 企業 N
 O法人の関係者約100
 人が参加、取り組みの発表
 などを通じ、刺激を授け、
 地元の魅力を再発見した。
 ロカル（地域）に根差
 しつつグローバル（世界



全国の高校生が意見を交わしたグローバルリーダーズサミット

ローカル」の考えを同世代と共有しようと、同校2年の益山綾さん(17)と中村千美理さん(17)が発起人となって企画。生徒14人で実行案をつくり、参加校を募立てたりするだけの準備を進めてきた。

組合発表、テーマについて意見を交わす「未来カレッジ」、交流会を企画。飯野高は2018年から実施している「青き宝珠イベント」(NOGICK)などについて紹介した。

益山さんは「改めて地域の魅力や温かさに気付くことができた」、中村さんは

見があり、刺激を受けた」と話した。
(村永哲哉)



「特等はやとの馬」を便二で購買、福生が合意した
「おもてなし列車」

JR 吉都線の絶景満喫

飯野高生企画ツアー盛況

「J・R・Yが縁に頼んでもらおう」といひの市・飯野高生が企画した「おもてなし列車」が1日、小林駅と吉松駅（鹿角市黒瀬水町）を往復した。人気の観光列車「吾妻」の風情を忠実に再現した。乗客は高校生が語り合った、温かな雰囲気に包まれた。

同校生による観光列車企画

画は、昨年9月に続き2回目。同校3年の前山臨耶さん(18)は「吉都線には多くの人を呼び込める可能性がまだまだある。大学に進学しても関わり続けたい」と話した。

(海老原 音)

《美国战前》

地域と連携した学び

飯野高生が成果披露

（相方修校長、約240人）の「グローバル学習成果発表会」が市文化センターであった。「ローカル」と「グローバル」の両方の人を前に、3年生たちから



学習成果を発表する生徒たち
 二えびの市文化センター

今年で5回目となる発掘調査は、今年（10月）は生徒たちが今週末、実行委員長の江島翔さんが「地域のために私たち高校生ができること」という地域への課題を話し、多岐の協力を得て様々な活動に取り組んできた。社会に出て地域から学び得たことを生かしていきたいと思います」とあいさつした。

3年生約80人は「地域貢献活動」「地域探究活動」

また、「児童虐待」の問題から子育て支援のイベントに取り組んだり、外国に對する理解を深めようと異文化交流会を開いたり、地元の観光振興を旨としてJR吉都線に観光列車を走らせたり、様々な学習の成果が報告された。観光列車は2月21日に第2弾を企画しているという。

今回の発表会に合わせ、10・12日、各地の高校生た

ちが将来を見据えて語り合う「全国グローバルリーダーズsummit」も同校で初開催された。

同校は今年度、文部科学省の「地域との協働による『高校教育改革推進事業』の『地域魅力化型』」に選ばれた。全国20校で県内では県立宮崎南高校も指定。同事業の「グローバル型」(20校)には県立五ヶ瀬中高等学校が指定された。

（柳本浩司）

「地域支援活動」の三つのカリキュラムに分かれ、多様な活動を行ってきた。週一時間ずつ1年間、高齢者福祉施設で実習活動をしたグループは、高齢者が楽しめるレクリエーションを考え、リハビリ体操にも取り組んだという。生徒たちは「自分から高齢者に話せるようになった」「周りのことを考えられるように

100

えびの市の飯野高生が発案
、市民団体「吉田線に観光列
車」を呼びほう！ 小林実行委員
云が主催。小林「吉松を往復
する間、同路線の応援大使を務
めるMR.Tアナウンサー 田代剛

「はやとの風」で
吉都線楽しもう
21日にツアー

さんが吉野驛の魅力を解説するほか、同大使のシンガー・ソングライター、大野勇太さんも歌で盛り上げる。吉野驛では引退したSLも見学する。

午後2時半に小林駅集合。午後5時40分に同駅に戻る。参加費は1人4千円。弁当やお茶、お菓子なども料金に含む。定員50人。宮崎ツアーサービス090・984・(23)5551。

ひなたスマイル特別編「巣立ちの春で紹介したえびの市・飯野高3年生の宮田久代さん18と吉柳まいさん18。在学中、子育て支援いべんと「NOG-IKU」を立ち上げ、NOG-IKUは今後、在校生が受け継がれるという。市外の専門学校や大学に進学する2人は、サポート側として携わり続けたいと話す。これ以外にもJR吉野線に観光列車

■べふん舌

えびの支局 村永 哲哉

を走らせながら、同校発のさまざまなイベントを知りてきた。生徒のアイデアを受け入れ、教諭や他の生徒、地域住民までもが協力して実現まで、この着信が瑞穂が整っている点にいる。大きな努力を凝して同校を旅立つた3年生たち。NOGIKUを含めた同校発イベントの発展とともに、さらなる瑞穂を願っている。